

令和４年度（2022 年度）

箕面子どもステップアップ調査結果報告
（その１）

- 全国学力・学習状況調査
- （大阪府）すくすくウォッチ
- 箕面体力・運動能力・運動習慣等調査

令和４年（2022 年） １ １ 月

箕面市教育委員会

目次

箕面子どもステップアップ調査の概要……………	3
------------------------	---

全国学力・学習状況調査の結果分析について

全国学力・学習状況調査について……………	10
令和4年度全国学力・学習状況調査＜概要＞……………	11
令和4年度全国学力・学習状況調査＜概要＞小学校国語…	13
令和4年度全国学力・学習状況調査＜概要＞小学校算数…	15
令和4年度全国学力・学習状況調査＜概要＞小学校理科…	17
令和4年度全国学力・学習状況調査＜概要＞中学校国語…	19
令和4年度全国学力・学習状況調査＜概要＞中学校数学…	21
令和4年度全国学力・学習状況調査＜概要＞中学校理科…	23
箕面市の児童生徒の「学習状況調査」結果から……………	25

(大阪府)すくすくウォッチ わくわく問題の結果分析について

令和4年度(大阪府)すくすくウォッチ＜概要＞わくわく問題(教科横断型問題)	31
---------------------------------------	----

体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析について

令和4年度箕面体力・運動能力、運動習慣等調査……………	33
各種目結果の学年別経年比較	
1年(小1)……………	34
2年(小2)……………	35
3年(小3)……………	36
4年(小4)……………	37
5年(小5)……………	38
6年(小6)……………	39
7年(中1)……………	40
8年(中2)……………	41
9年(中3)……………	42
運動習慣等調査の結果から……………	43
箕面体力・運動能力、運動習慣等調査 まとめ……………	45

箕面子どもステップアップ調査の概要

1 「箕面子どもステップアップ調査」とは

国には、

○全国学力・学習状況調査

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

府には、

○(大阪府)すくすくウォッチ

があります。

箕面市では、国・府の調査の他、独自に以下の調査を実施しています。

○箕面学力調査

○英検 IBA

○箕面体力・運動能力、運動習慣等調査

○学習状況・生活状況調査

○学校生活アンケート

箕面市では、これら国・府の調査、箕面市独自調査のすべてを総称し、「箕面子どもステップアップ調査」と呼んでいます。

箕面子どもステップアップ調査 (箕面学力・体力・生活状況総合調査)概要

		実施時期	1年生 (小1)	2年生 (小2)	3年生 (小3)	4年生 (小4)	5年生 (小5)	6年生 (小6)	7年生 (中1)	8年生 (中2)	9年生 (中3)
学力調査	全国学力学習状況調査	4月						● 国・算・理			● 国・数・理
	すくすくウォッチ	4月					● 教科横断的な問題	● 教科横断的な問題			
	学力調査	12月	● 2教科	● 2教科	● 4教科	● 4教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	
	英検IBA	10月									●
体力調査 (★は全国調査に参加)		4月～6月	● 3種目	● 3種目	● 3種目	● 5種目	●★ 8種目	● 8種目	● 8種目	●★ 8種目	● 8種目
生活状況調査	学習状況 生活状況調査	6月・12月									
	学校生活 アンケート	10月・2月	●	●	●	●	●	●	●	●	●

2 箕面子どもステップアップ調査内容

箕面市では、9年間の小中一貫教育を通して、子どもたちの「学力・体力・豊かな心」をバランスよく育むため、平成24年度(2012年度)から全ての市立小中学校の全学年の児童・生徒を対象に、市独自の「箕面子どもステップアップ調査(箕面学力・体力・生活状況総合調査)」を実施しています。

この調査により、毎年、子どもたち一人ひとりの各学年における学力・体力・生活の状況を把握・分析し、教員の指導力・授業力を高めるとともに、翌年度の各学年の指導・授業内容に反映させていくことにより、9年間を通して継続的かつきめ細やかに子どもたちの総合力の育成を進めます。

○調 査 の 目 的

- (1) 箕面市教育委員会は、市内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校は、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒一人ひとりへの教育指導の充実や学習状況の改善などに活用する。
- (3) 箕面市教育委員会、学校は、上記(1)(2)の取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○学 力 調 査

▼学年ごとに子どもたち一人ひとりの各教科の到達度を把握・分析し、子どもたち一人ひとりに応じた着実な学力の向上を図ります。

▼調査結果を活用し、各学年の年間指導計画を立て、継続性のある学習指導を行うとともに、教員の指導力・授業力の向上を図ります。

内 容

(1) 全国学力・学習状況調査

【6年生(小6)】 国語、算数、理科

【9年生(中3)】 国語、数学、理科

(2) (大阪府)すくすくウォッチ

【5、6年生(小5、6)】 わくわく問題(教科横断型問題)

(3) 箕面学力調査

【1～2年生(小1～小2)】 国語・算数

【3～4年生(小3～小4)】 国語・社会・算数・理科

【5～6年生(小5～小6)】 国語・社会・算数・理科・英語

【7～8年生(中1～中2)】 国語・社会・数学・理科・英語

なお、国語と英語は、リスニング(聞き取り)調査も実施

※各教科とも11月までに学習した範囲で、各学年における各科目の到達度を調査

(4) 英検 IBA

【9年生(中3)】 英検3級レベルを実施

○ 体 力 調 査

▼子どもたち一人ひとりの発達段階に応じた基本的な運動能力を調査し、基礎体力の向上を図ります。

▼日頃の運動習慣等を把握し、学校での様々な取り組みにつなげるとともに、家庭や地域と連携して課題の改善を図ります。

内 容

(1) 箕面体力・運動能力調査……「全国体力・運動能力等調査」と同時に実施

◎調査種目

【1～3年生(小1～小3)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ

【4年生(小4)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ・反復横とび・20m シャトルラン

【5～9年生(小5～中3)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ(中学生はハンドボール投げ)・反復横とび・20m シャトルラン・握力・上体おこし・長座体前屈

(2) 運動習慣、生活習慣等に関するアンケート調査……全学年で実施

○ 生 活 状 況 調 査

▼子どもたちの学習習慣、ご家庭や学校での生活状況をアンケート形式で調査し、自尊感情*などの向上及び学習課題や生活課題の改善を図ります。

内 容

- ・ 「自尊感情」等の自己認識、「規範意識」や「思いやり」等の社会性、学級環境、生活や学習の習慣等の調査
- ・ 「いじめ」に対する子どもたちの意識・状況も調査

※自尊感情…自分自身に対する肯定的な感情。自分で自分自身を価値ある存在だとする感情。

3 報告の概要

この報告は、箕面子どもステップアップ調査のうち、4月に実施した全国学力・学習状況調査と大阪府すくすくウォッチ、及び4月から6月にかけて実施した箕面体力・運動能力、運動習慣等調査の市全体の結果の概要です。

各学校では、それぞれに結果概要を作成し、保護者に報告します。

4 箕面市の指標と目標値、実施済みの一部結果

本市では、児童生徒一人ひとりの学力・体力・生活状況を継続的に把握し、教育指導の充実や学習状況・生活状況の改善にむけた取り組み結果の検証軸として、以下の指標と目標値を設定しています。

令和4年度(2022 年度)の目標値と結果

1	全国学力・学習状況調査の結果		校種	学年	教科	目標値	箕面市	結果※
	<指標> 全国学力・学習状況調査の学力調査の平均正答率 <目標値> 全国トップの都道府県の平均正答率を上回る。		小学校	6年	国語	71.0	70.0	●
					算数	69.0	66.0	●
					理科	71.0	65.0	●
			中学校	3年	国語	73.0	71.0	●
					数学	58.0	56.0	●
					理科	55.0	50.0	●
学習状況・生活状況調査		校種	学年		目標値	箕面市	結果※	
<指標> 家庭学習の時間に関わる質問項目の回答結果 小学生:1時間以上 中学生:2時間以上		小学校	3年		45.4%	2学期に実施		
			4年		55.0%			
			5年		65.2%			
			6年		71.7%			
		中学校	1年		48.2%			
			2年		49.5%			
			3年		78.0%			
学習状況・生活状況調査		校種	学年		目標値	箕面市	結果※	
<指標> いじめのサインに関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)		小学校	1年			2学期に実施		
			2年					
			3年					
			4年					
			5年					
			6年					
			小学校平均		85.0%			
		中学校	1年					
			2年					
			3年					
中学校平均			95.0%					
学習状況・生活状況調査		校種	学年		目標値	箕面市	結果※	
<指標> 自己肯定感に関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)		小学校	1年		①成功体験と自信 (小)85.0以上 (中)80.0以上 ②充実感と向上心 (小)95.0以上 (中)85.0以上	2学期に実施		
			2年					
			3年					
			4年					
			5年					
			6年					
		中学校	1年		③感動体験 (小)75.0以上 (中)70.0以上 ④他者からの評価 (小)70.0以上 (中)70.0以上			
			2年					
			3年					

	英検IBA	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
5	<指標> 英検3級程度の力	中学校	3年	80.0%	2学期に実施	
	箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査	校種	学年	平均超えの種目数 ／全種目数	達成率	結果※
6	<指標> 全8種目それぞれの男女別学年平均値 <目標値> 全学年・全種目で全国平均値を上回る。 ■種目 (1)握力 (2)上体起こし (3)長座体前屈 (4)反復横とび (5)20mシャトルラン (6)50m走 (7)立ち幅とび (8)ボール投げ(小:ソフトボール 中:ハンドボール) ※男女別の集計ですので、各学年とも種目数は2倍 になっています。	小学校 1年 2年 3年 4年 5年 6年 中学校 1年 2年 3年	1年 2年 3年 4年 5年 6年 1年 2年 3年	0 / 6 0 / 6 1 / 6 0 / 10 0 / 16 2 / 16 0 / 16 1 / 16 0 / 16	0.0% 0.0% 16.7% 0.0% 0.0% 12.5% 0.0% 6.3% 0.0%	● ● ● ● ● ● ● ● ●
	学習状況・生活状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
7	<指標> 学級環境に関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)	小学校 1年 2年 3年 4年 5年 6年 中学校 1年 2年 3年	1年 2年 3年 4年 5年 6年 1年 2年 3年	①学級の規範意識 (小)80.0以上 (中)75.0以上 ②学級の絆 (小)80.0以上 (中)75.0以上	2学期に実施	
	学校生活適応状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
8	<指標> 全学年での不登校(傾向)児童・生徒の千人率	小学校 1年 2年 3年 4年 5年 6年 中学校 1年 2年 3年 平均値	1年 2年 3年 4年 5年 6年 1年 2年 3年 6.14	0.65 1.34 2.1 0.7 3.41 4.71 10.94 16.2 15.21 6.14	年度末に集計	
	すくすくウォッチの結果	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
9	<指標> 大阪府すくすくウォッチ(教科横断的な問題)の平均正 答率 <目標値> 令和3年度の平均正答率を上回る。	小学校	5.6年	66.1%	69.5%	◎

※ 結果の欄について、「◎」は目標達成、「●」は未達成を表しています。

※ 全国学力・学習状況調査結果の詳細については、P10・P11に掲載しています。

■ 全国学力・学習状況調査の結果

【結果】

学力調査は、小学校6年生を対象に国語・算数・理科の3教科、中学校3年生を対象に国語・数学・理科の3教科で行われました。

小学校、中学校ともに、全ての教科で全国の平均正答率及び府内の平均正答率を上回る結果となりましたが、全国トップの都道府県の平均正答率を上回るという目標は、達成できませんでした。

【取り組みの経過】

調査ごとに結果を分析し公表してきました。分析で明らかになった課題については、各学校で子どもたちの実情に応じて取り組みを進めてきました。「学力向上には授業改善が不可欠である」との考えのもと、平成25年度より秋田県由利本荘市と盛んに交流することで学んだことや、授業研究を通して策定した「箕面の授業の基本」を市内全校で実施しています。

【分析】

(1)今年度の全国トップの都道府県と箕面市の全国学力調査の結果を比較すると、小学校では国語の「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題において正答率が約10ポイント下回りました。また、中学校では、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問題の正答率が、全国トップの都道府県より約7ポイント下回りました。これらのことから、箕面市の子どもたちには、「自分の考えをまとめたり、伝えたりする力」に課題があることがわかりました。

算数・数学では、約6割の問題で全国トップの都道府県の正答率を上回りました。しかし、小学校では「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する」に係る問題の正答率が10ポイント以上下回りました。また、中学校では「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する」問題が、他の問題と比べて低い正答率となりました。

理科では、約8割の問題で全国トップの都道府県の正答率を下回りました。小学校では「実験器具の名前を答える」問題で全国平均を約10ポイント下回りました。実験を通じた学習では、実験の手順をただ覚えるのではなく、使用する器具の名前とも関連付けて学習する必要があることがわかりました。

(2)調査結果の分析で明らかになった課題を焦点化し、その課題の解決のため具体的な目標を立て、達成のための指導内容や指導方法を全教職員で共有し、子どもたちの学力の状況をきめ細かく把握しつつ、日々の授業で継続的に地道な取り組みを進めていきます。

■ 体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

【結果】

1年生から9年生まで男女別で調査した種目の総数は、108種目です。その内、全国平均を上回った種目数は4種目で、全体の3.7%でした。全学年、全国平均を上回るという目標は、達成できませんでした。

【取り組みの経過】

本市の体力が全国を下回ることが明らかになったときから、体力向上にむけた計画を策定してきました。その一環として、体力向上用具の配付や体力向上ボランティアなどの取り組みを行ってきました。また、一昨年度から、小学校では、全校統一のカリキュラムのもと、副読本を活用した体育授業をすすめ、子どもの「わかる・できる」を大切に、体力向上とともに運動への意欲向上に努めています。

【分析】

- (1) 小学校の学年や男女別によっては、全国平均値を上回る種目も見られた一方で、ほとんどの種目が全国平均値を下回る結果となりました。特に「ボール投げ」では、全ての学年で全国平均値を大きく下回りました。
- (2) 運動習慣等調査と体力合計点の関係で、運動のコツやポイントをつかむことができる子どもたちは体力合計点が高いことがわかりました。また、「体育の授業で学んだ運動やスポーツを、大人になってもやってみたい」と答えた小中学生は、体力合計点が高いことがわかりました。

■大阪府新学力テスト「すくすくウォッチ」の結果

【わくわく問題(教科横断的な問題)とは】

特定の教科の枠にとらわれない教科横断型問題で、文章や絵、図、表、グラフ、ホームページなどを読んで、自分の考えを書くなどの問題です。答えは、記号を選んだり、文章を書いたり、図に色をぬったり、絵をかいたりします。答えが1つでないものもあります。

【分析】

- (1) すべての領域、観点、問題形式で大阪府の平均正答率を上回る良い結果となりました。中でも、「興味・関心のある事ならについて、意欲的に工夫して相手に伝える」問題や「図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容に関連付けて、新たな課題となる事柄を考える」問題の平均正答率が高く、自分で考えたことを伝える力が身についていることがわかります。しかし、「資料の内容に関連付けて、正しく捉える問題は平均正答率が低く、課題が見られました。
- (2) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成するため、各教科で学んだことを生かして、自ら課題を見つけ、情報を集めて、友だちと知恵を出し合い、解決策を考える活動に各校で取り組んでいます。

令和4年度(2022年度)箕面子どもステップアップ調査 全国学力・学習状況調査について

1 実施日

令和4年(2022年)4月19日(火曜日)

2 調査対象

市内公立小学校6年生全児童及び、中学校3年生全生徒

3 調査内容

学力状況調査

学力状況調査(小学校6年生:国語、算数、理科)

学力状況調査(中学校3年生:国語、数学、理科)

児童学習状況調査及び生徒学習状況調査

4 参加人数

小学校6年生:14校 1,507人

中学校3年生:8校 1,148人 計2,652人

5 公表の目的

本市の教育及び教育施策における子どもの学力向上の取組の成果と課題をできるだけわかりやすく、市民や保護者へ説明することにより、地域・家庭の方々の学校教育への理解と信頼を得るとともに、子どもの学力向上に向けて連携した取り組みにつなげる。

6 公表の方法

- (1)本市の調査結果や分析結果については、平均正答率等を活用し文書等により説明する。
- (2)個々の学校名を明らかにするなど、学校間の過度の競争等につながるおそれのある公表を行わない。
- (3)各学校においては、自校の調査結果や分析結果を文書等により説明する。

7 公表の手段

(1)教育委員会

教育委員会ホームページ

(2)各学校

- ①各校の実情に応じて「学校(学年)だより」などで説明
- ②学校協議会、懇談会などで説明

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果

(国立教育政策研究所 HP から)

小学校

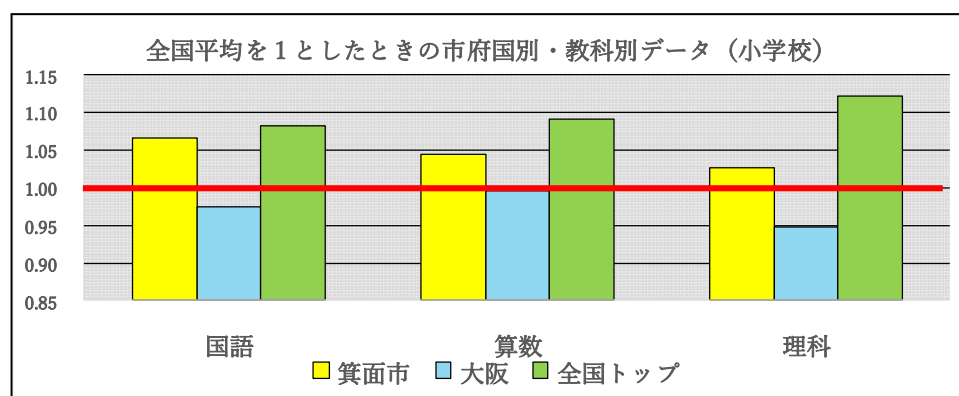
<平均正答率の状況>

	国 語	算 数	理 科
箕面市	70.0 (3)	66.0 (6)	65.0(9)
大阪府	64 (44)	63(23)	60(48)
全 国	65.6	63.2	63.3
都道府県 全国トップ	71 (秋田)	69 (石川)	71 (秋田)

<全国平均を1としたときの市別・教科別データ>

	国 語	算 数	理 科
箕面市	1.07	1.04	1.03
大阪府	0.98	0.997	0.95
都道府県 全国トップ	1.08 (秋田)	1.09 (石川)	1.12 (秋田)
全国トップに 対する箕面 市の割合	0.99	0.96	0.92

※ () は 47 都道府県の平均値を基に並べ直した 48 件中の順位



中学校

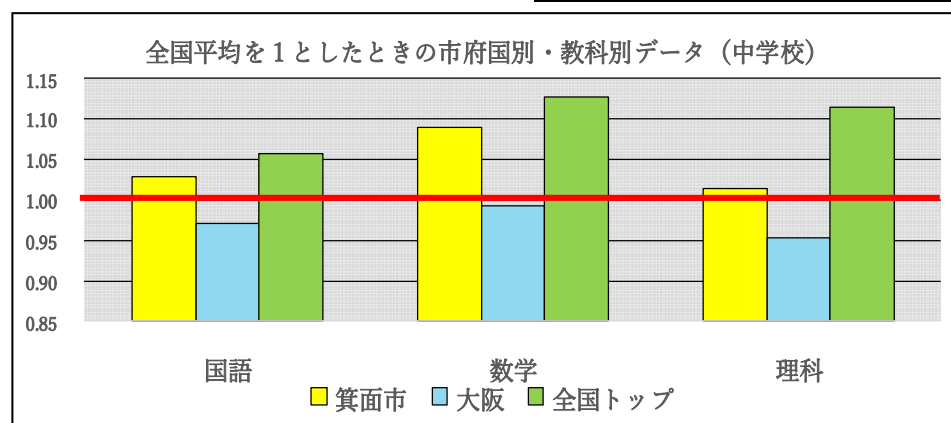
<平均正答率の状況>

	国 語	数 学	理 科
箕面市	71.0(4)	56.0(3)	50.0(17)
大阪府	67(45)	51(27)	47(45)
全 国	69.0	51.4	49.3
都道府県 全国トップ	73 (秋田・石川)	58 (石川)	55 (石川)

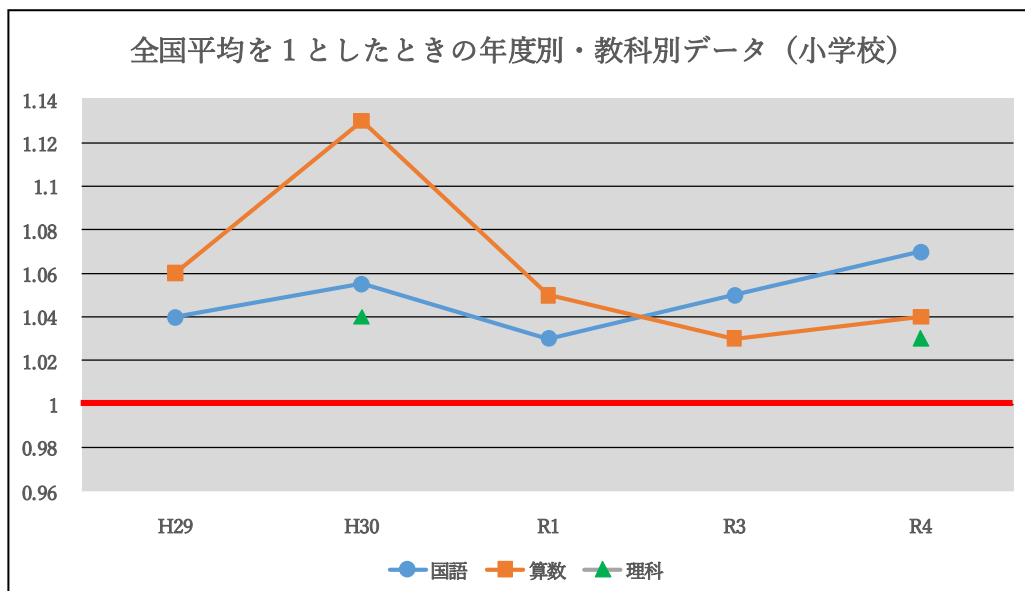
<全国平均を1としたときの市別・教科別データ>

	国 語	数 学	理 科
箕面市	1.03	1.09	1.01
大阪府	0.97	0.992	0.95
都道府県 全国トップ	1.06 (秋田・石川)	1.13 (石川)	1.12 (石川)
全国トップに 対する箕面 市の割合	0.97	0.97	0.91

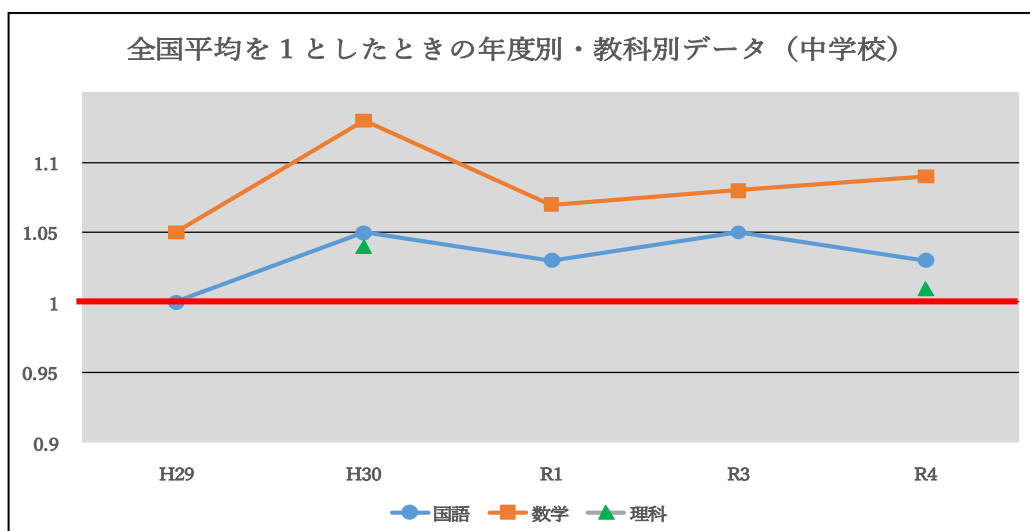
※ () は 47 都道府県の平均値を基に並べ直した 48 件中の順位



小学校



中学校



※1 H29・H30の国語・算数・数学の数値は国語A・国語B、算数A・算数B、数学A・数学Bの数値の平均値

※2 R2は全国学力・学習状況調査は実施されていません。

※3 理科は3年に1度の実施となります。

令和4年度 すくすくウォッチ(わくわく問題)

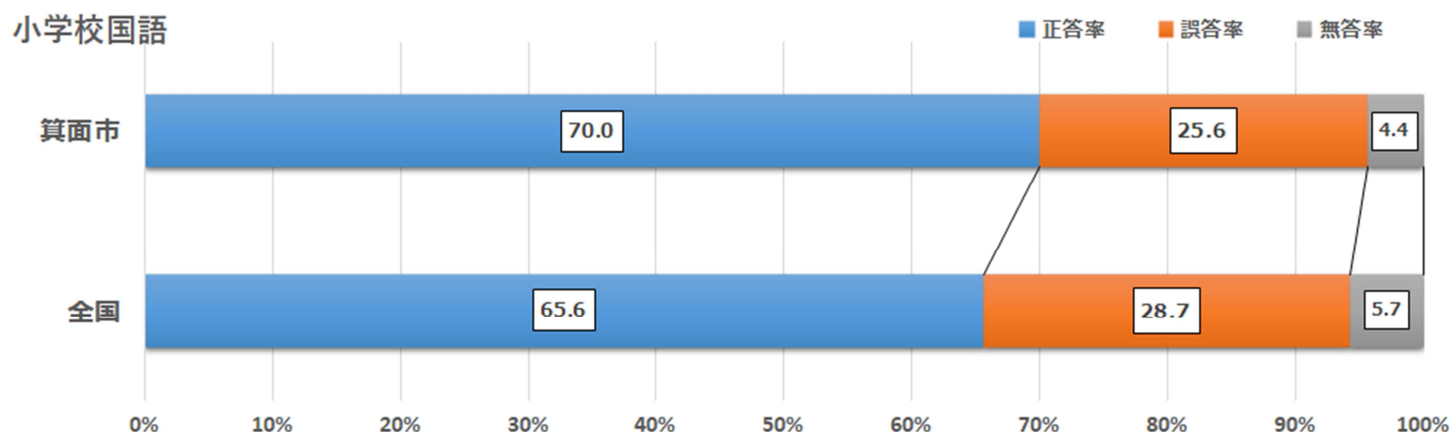
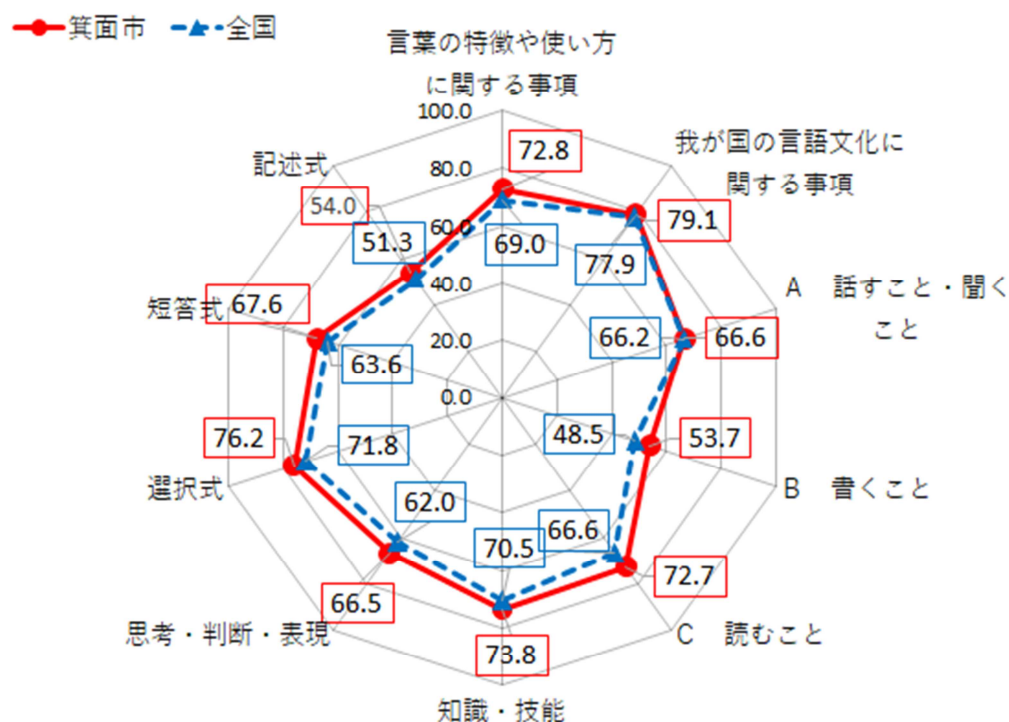
<平均正答率の状況>

	5年	6年
箕面市	67.2	71.7
大阪府	60.0	69.0

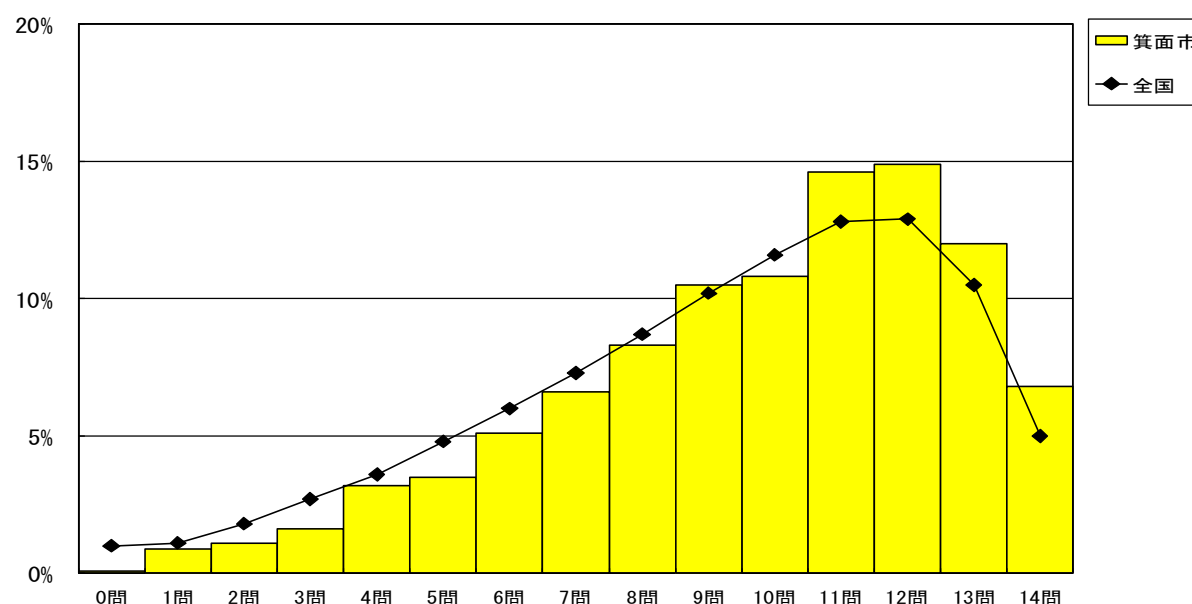
<大阪府平均を1としたときの箕面市のデータ>

	5年	6年
箕面市	1.12	1.04

正答率

領域・観点
問題形式別正答率

正答数分布



国語から見えてくること

国語では、ほぼ全ての問題で全国平均正答率を上回る結果となり、本市の状況は概ね良好と言えます。

また、無答率に関しても、ほぼ全ての問題で全国平均正答率を下回る結果となり、問題に取り組もうとする児童が多い傾向にあると言えます。

○「思考力、判断力、表現力等」における「書くこと」、「読むこと」に関する問題では、全国平均正答率との差が5ポイント以上で大きく上回りました。その中でも、「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」問題では5.9ポイント、「登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉える」問題では7.2ポイント全国平均正答率を上回る良い結果でした。

△「話すこと・聞くこと」では、「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の意見をまとめる」問題で、全国平均正答率を1.9ポイント下回り、無答率も0.2ポイント高い結果となりました。→課題があった問題(裏面に記載)

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の意見をまとめる問題



誤答で最も多かったのは、「話し合いの一部から言葉や文を取り上げて書く」という条件を満たしていないものだったよ。

この場面では、問題点についての解決方法を示すことや、話し合いの様子から言葉や文を取り上げることが必要でござる。そうすることで、自分の意見に説得力が出てくるでござる。
正答例のように問題点については、話し合いの様子から取り上げる必要があるでござる。



問題の詳細は、上のQRコードから確認することができます。

（正答例）
ごみ拾いがよいと思います。続けることがむずかしい点については、当番を決めてごみを拾ったり、地いきの方にも呼びかけて協力してもらったりするとよいと思います。（七十七字）

【条件】
○「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を考えて書くこと。
○【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○書き出しの言葉に続けて、五十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。
なお、書き出しの言葉は、字数に含まない。

【岡さんのメモ】	
アイデア	よい点 △問題点
ごみ拾い	○ごみがなくなる △続けることが難しい
花植え	○はなやかに △世話を続けることが難しい
ペンキぬり	○明るくなる △できるかどうかは分からない

この問題は、地域のためにできることについて、学級で話し合っており、岡さんのグループでは、学校の近くにある公園をきれいにすることについて話し合っている場面を想定しています。
問題としては、「みなさんのアイデアやメモから取り組みやすいという理由で、私は、」に続けて「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで書くことが必要となります。

目的や意図に応じて、自分の意見を表そう

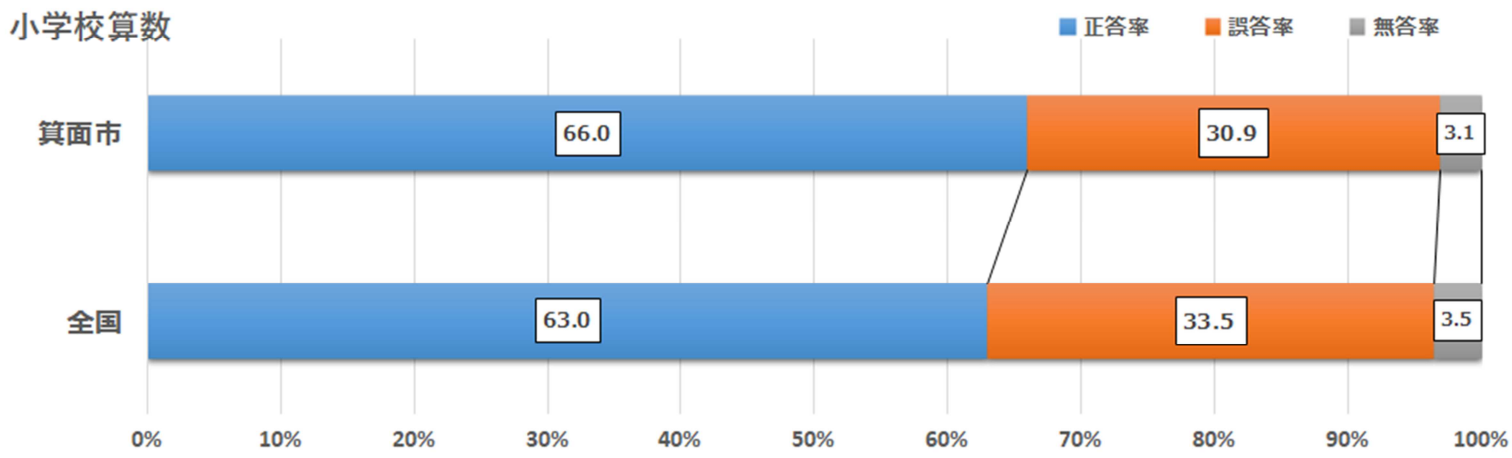
国語の時間では、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり、適切に表現する力を高めたりしています。話すこと・聞くことの活動では、話すことについて構成の検討や考えの形成、表現方法や共有方法、また話し合いの進め方などについて学習します。高学年になると、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることが求められます。

上記の問題では、「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の意見をまとめる」という場面になっています。

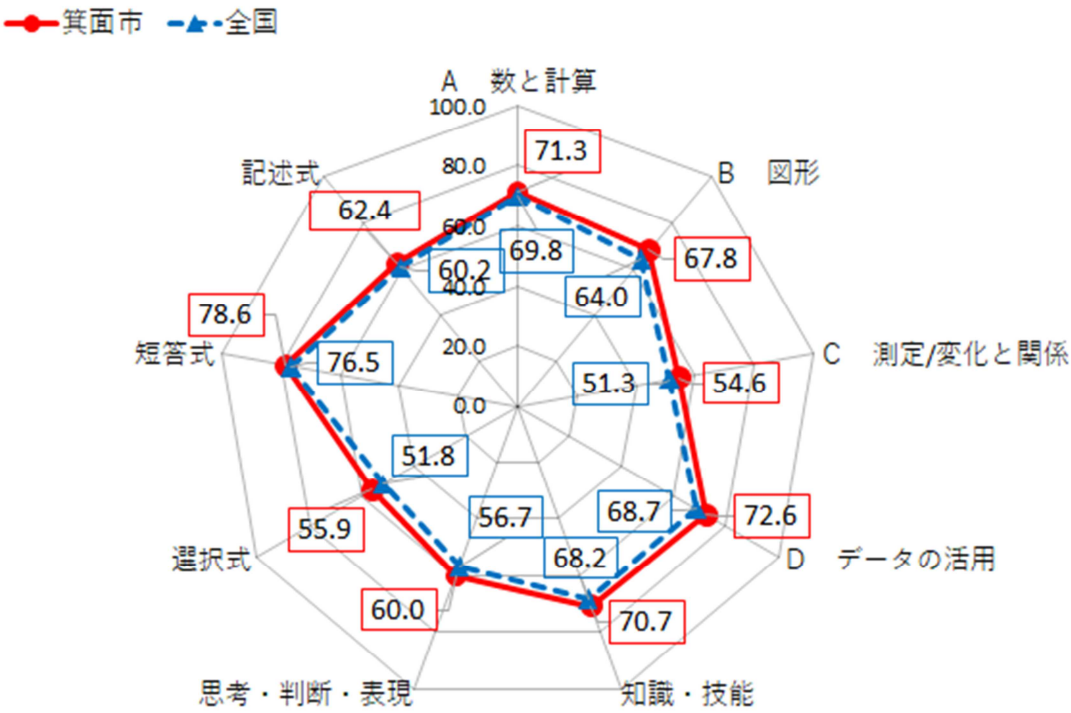
話し合いの活動をうまく進めていくためには、異なる立場からの考えを聞き、意見のもととなる理由を尋ね合うことで、互いに考えを広げたりまとめたりすることが大切です。また、どのように話し合うのかといった話し合いの方法についても意識する必要があります。

日常生活の中でも、相手の意見を尊重しながら自分の立場や意見を伝えることができるようにすることが大切です。

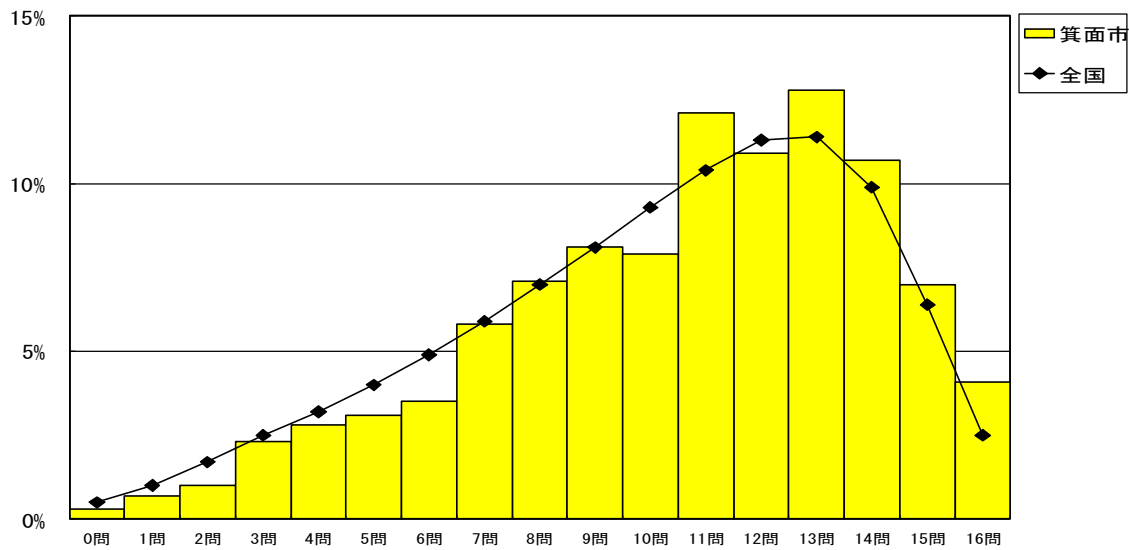
正答率



領域・観点
問題形式別正答率



正答数分布



算数の問題から見えてくること

すべての領域、観点、問題形式において、全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は概ね良好です。

○領域別では、「データの活用」の領域が、全国の平均正答率を最も上回りました。（全国比＋3.9ポイント）

- ・分類されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え、考察する問題（全国比＋4.9ポイント）

○観点別では、「思考・判断・表現」の観点が、全国の平均正答率を最も上回りました。（全国比＋3.3ポイント）

- ・示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断する問題（全国比＋6.1ポイント）

△領域別では、「数と計算」の領域で、全国の平均正答率は上回ったものの（全国比＋1.5ポイント）、最も全国との差が小さい結果となりました。

- ・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題（全国比－2.4ポイント）

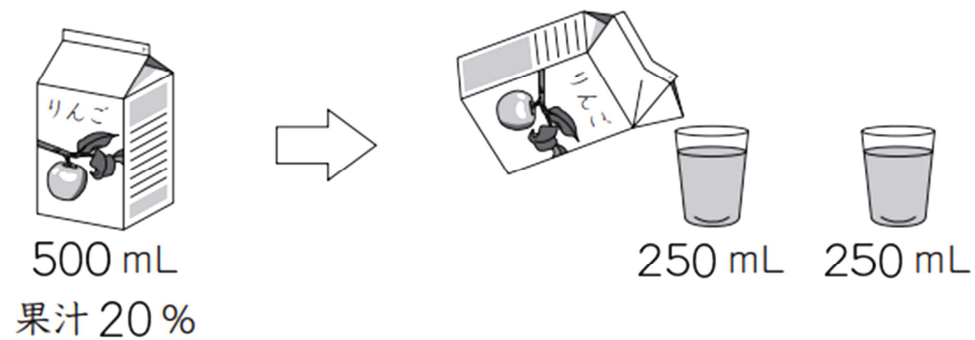
△領域別では、「変化と関係」の領域で、全国の平均正答率を上回ったものの（全国比＋3.3ポイント）、市の平均正答率が最も低い結果となりました。

→課題があった問題（裏面に記載）

算数 全16問のうち、最も正答率が低かった問題

2 (3) 果汁入りの飲み物について考えます。

りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになります。250mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について次のようにまとめます。



250 mL は、500 mL の $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、 ア

上のアにあてはまる文を、下の1から3までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

【正答】 3

【考え方】 ①果汁20%500mLの果汁量： $500 \times 0.2 = 100$ ③二つに分けた一つ分の果汁の割合： $50 \div 250 = 0.2$

②二つに分けた一つ分の果汁量： $100 \div 2 = 50$

④よって、二つに分けても果汁の割合は20%のまま変わらない。

この問題は、示された場面のように「数量が変わっても割合は変わらないこと」を理解しているかを問う問題です。果汁が20%含まれている飲み物を二人で等しく分けると、「飲み物の量（基準量）」は $1/2$ になりますが、飲み物に含まれている「果汁の量（比較量）」も $1/2$ になるため、一人分の飲み物に含まれている「果汁の割合」は変わりません。このように、割合を用いた場面では、基準量・比較量・割合の関係を捉えて考察する必要があります。



全国・箕面市ともに約7割の小学6年生が、1「飲み物の量が $1/2$ になると果汁の割合も $1/2$ になる」の誤答を選択していたんだね。

ジュースをコップに二人でわけると、含まれている「果汁の量」はどう変わるでござるかな？ 味が変わるのか想像するでござる。



問題の詳細は上のQRコードより確認することができます。

日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解しよう！

日常生活では、『10%の増量』『2割引き』『打率』など、「割合」を用いて変化や関係を表現したり、比較したりする場面が多くあります。抽象的な概念である「割合」を理解するのは難しいため、そういった日常生活の具体的な場面や生活経験と対応させて理解を図ることが大切です。例えば上記の問題では、「飲み物の量が $1/2$ になると含まれている果汁の量も $1/2$ になる」ということは目に見えませんが、「飲み物を分けても濃さは変わらない」という生活経験を想起することは可能です。生活経験を基にした判断と、計算で求めた結果とを関連付けて、実感をともなった考えができるようにすることが重要です。

箕面市

令和4年度 全国学力・学習状況調査＜概要＞

小学校 理科

正答率

小学校理科

箕面市

全国

正答率

誤答率

無答率

0%

10%

20%

30%

40%

50%

60%

70%

80%

90%

100%

領域・観点
問題形式別正答率

● 箕面市

▲ 全国

「エネルギー」を柱とする領域

100.0

80.0

60.0

40.0

20.0

0.0

記述式

49.5

47.3

「粒子」を柱とする領域

53.5

51.6

60.4

58.9

75.0

77.7

「生命」を柱とする領域

66.8

64.6

66.8

61.7

62.5

63.7

「地球」を柱とする領域

66.2

63.3

66.8

69.1

66.2

63.7

思考・判断・表現

66.2

63.7

知識・技能

62.5

61.7

選択式

69.1

66.8

短答式

66.2

63.3

正答数分布

■ 箕面市

◆ 全国

0問

1問

2問

3問

4問

5問

6問

7問

8問

9問

10問

11問

12問

13問

14問

15問

16問

17問

0%

5%

10%

15%

理科の問題から見えてくること

問題数17問中12問(約70%)は、全国の平均正答率を上回っており、概ね良好な結果と言えます。

○「エネルギー」を柱とする領域は、すべての問題(4問)が全国平均を上回っています。

- ・実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ問題 (全国比+2.5ポイント)

○「生命」を柱とする領域は、すべての問題(5問)が全国平均を上回っています。

- ・自分の観察記録と新たに追加された他者の観察記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く問題(全国比+4.4ポイント)

○「地球」を柱とする領域は、5問中4問が全国の平均正答率を上回っています。

- ・夜の気温の変化について、他者の予想をもとに、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ問題 (全国比+7.4ポイント)

△「粒子」を柱とする領域は、5問中4問が全国の平均正答率を下回っています。

- ・一定量の液体の体積を、適切にはかり取る器具の名称(メスシリンダー)を書く問題 (全国比-9.9ポイント)

→課題が見られた問題(裏面に記載)

-17-

2 たろうさんたちは、紅茶を冷やしたり、あまくしたりして飲むために、水と砂糖水を冷とう庫でこおらせることにしました。



水が先にこおって、砂糖水は、こおるのに時間がかかったよ。砂糖水は、水よりこおる温度が低いのかな。調べてみたいね。

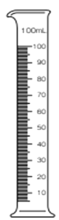
砂糖水だけでなく、食塩水も調べてみたいね。



たろうさんたちは、【問題】を見つけたので、調べることにしました。

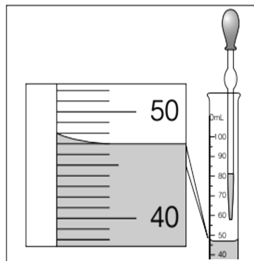
【問題】

砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低いのだろうか。



(1) たろうさんが使った器具の名前を答えましょう。

- (正) メスシリンダー (57.9%)
(誤) フラスコ (8.1%)
(誤) 無解答 (14.0%)



(2) 50の目盛りよりも下まで水を入れました。50mLの水をはかりとるためにはこのあとスポイトでどれだけの水を入れるとよいですか。※4つの選択肢から選ぶ

- (正) 3mL (68.9%)
(誤) 2mL (17.7%)

5年生で使った教科書(181ページ)に書いてあったことを思い出したよ。



各学年で学習したことを振り返ったり確かめたりすることが大切でござる。



問題の詳細は上のQRコードより確認することができます。

理科 粒子に関する問題(4) 自然の事物・現象を気付きの視点で分析・解釈

この問題は、「水を凍らせた物(氷)」や「砂糖水を凍らせた物」など凍った水溶液について、試してみたいことをもとに、見いだされた問題について確認しています。

ここでは、自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点から分析、解釈し、自分の考えを記述することが求められます。

正答の条件として、砂糖水以外の凍った水溶液が、水(紅茶)などの液体に、沈む(浮く)のかどうかについて記述できていることを求められていました。最も多かった誤答として、水溶液を凍らせていない物(例: トマトなど)を対象に記述しているものでした。

(正答例)

- ほかの水よう液をこおらせた物は、水にしずむのだろうか。
- ミョウバンをとかした水よう液をこおらせた物は、水にしずむのだろうか。

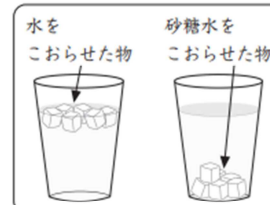
(正) 正答の条件を満たしている (39.0%)

(誤) 水溶液を凍らせていない物(例: トマトなど)を対象としている (14.3%)

(4) 砂糖水をこおらせた物は、紅茶に入れるとしずみました。



水をこおらせた物は、紅茶にうくの、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。



水に入れても、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。



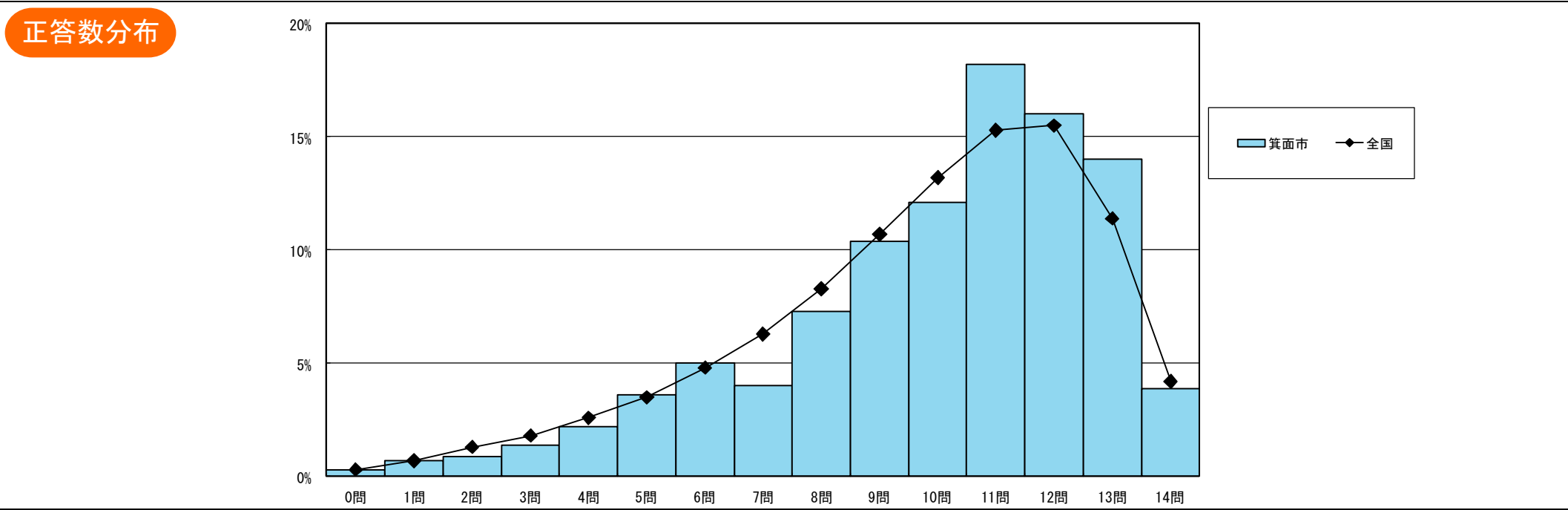
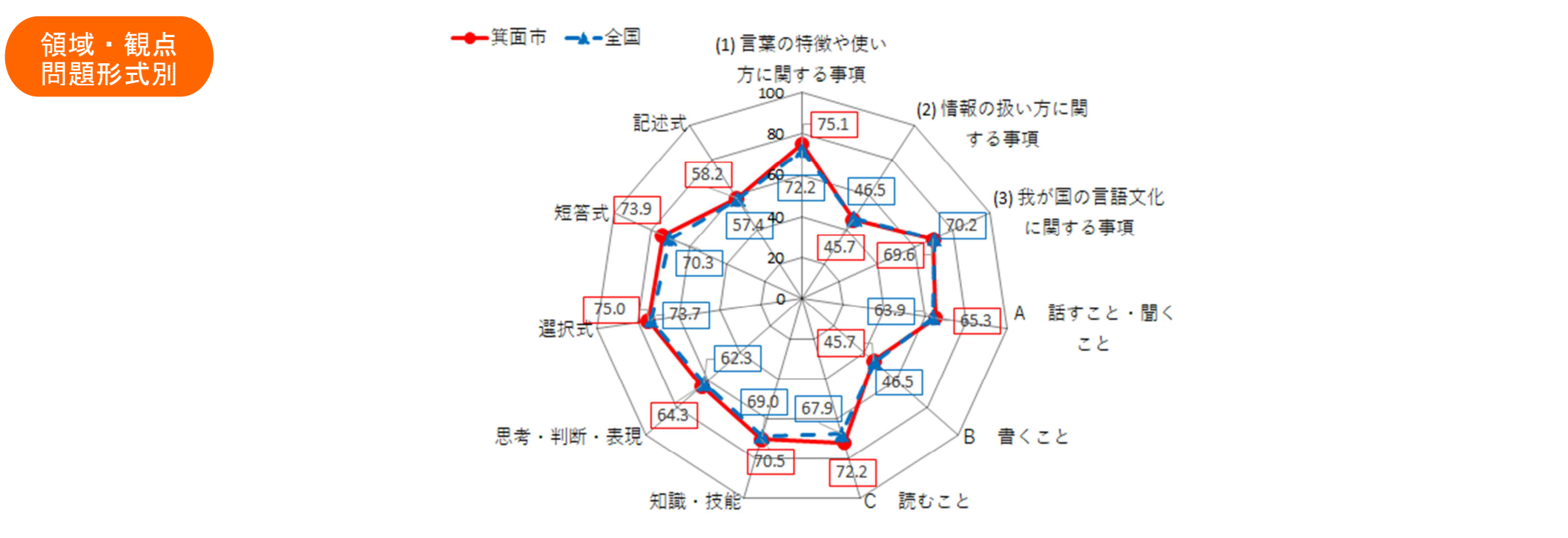
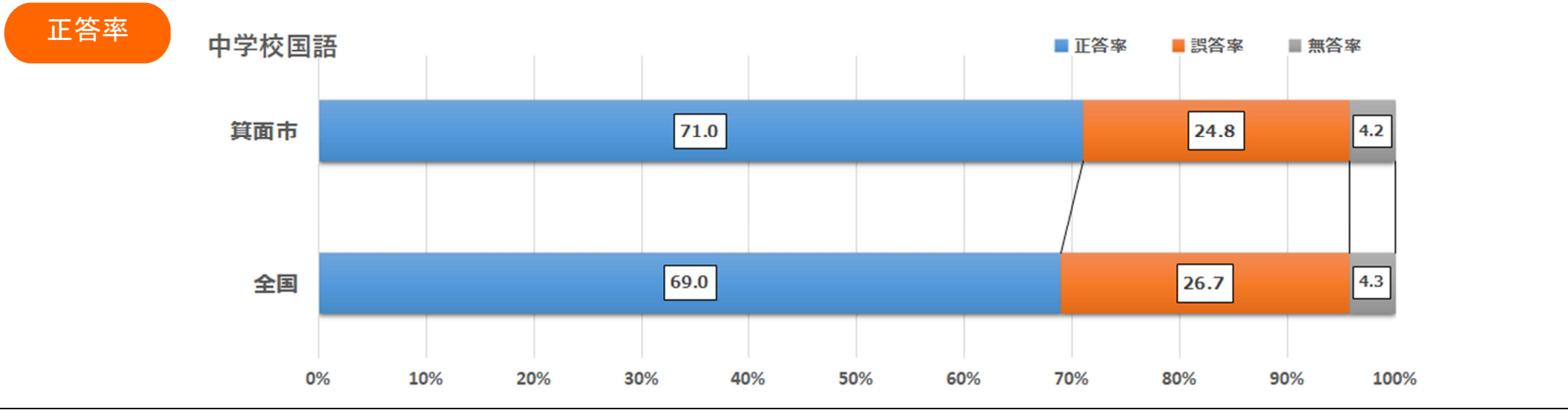
砂糖水をこおらせた物だから、水にしずんだのかな。砂糖水ではない、ほかの水よう液をこおらせた物でも試してみたいね。

はるとさんは、試してみたいことをもとに、【問題】を見つけた。はるとさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

学んだ知識を積み上げるとともに、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ

粒子に関する問題への課題が見えてきました。粒子(化学領域)の単元には、物の重さ【3年】、空気と水の性質【4年】、金属、水、空気と温度【4年】、物のとけ方【5年】、燃焼の仕組み【6年】、水溶液の性質【6年】があり、どの単元でも器具の正しい使い方が求められます。器具の使い方は単元ごとに示されていますが、詳細は巻末にまとめて記載されているため、定期的に確認することが重要です。器具の正しい使い方については、実験等で使用する器具を前年度の学びも含めて知識として定着させていくために、実験手順を省略することなく正確に実施することが重要となります。

理科では、自然に親しみ、見方・考え方を働かせ、実験結果や観察を通して得られた情報から違いや共通することを考えるとともに、確かな証拠を踏まえ、具体的な数字や前例などから物事を考えることが大切です。



国語から見えてくること

国語では、多くの問題において全国平均正答率を上回っています。本市の状況は概ね良好です。

○「思考力、判断力、表現力等」に関する問題のうち、「読むこと」に関する問題では、全国平均正答率を4.3ポイント上回りました。

○特に「知識及び技能」における（１）言葉の特徴や使い方に関する事項について、表現の技法を問われる問題では、全国平均正答率を9.2ポイント上回りました。

△全国平均正答率を下回った問題は、「知識及び技能」（２）情報の扱い方に関する事項と「思考力、判断力、表現力等」（B）書くことを複合的に問われる問題でした。全国平均正答率を0.8ポイント下回りました。

→課題があった問題（裏面に記載）

△「知識及び技能」（３）我が国の言語文化に関する事項において、行書の特徴について問われる問題の正答率が最も低かったです。また、無答率も全国より高く、課題が見られました。

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題

資料から必要な情報を適切に読み取り、活用することが大切だね。



不正解だった人のうち、半分以上が「引用する部分をかきかっこでくって書くこと」ができていなかったでござる。



（正答例）
（例えば）農林水産省のウェブページにある資料には、「作業の自動化」以外に「情報共有の簡易化」と「データ活用」が示されている。

【意見文の下書き】

私たちの生活は、先端技術により、わずかな期間で大きく様変わりしてきている。便利なことが増えてよいと感じるが、目的に応じて選択して活用することが大切だと思う。

そう考えるようになったのは、農業を営み、広大な農地を二人で管理している祖父母に、スマート農業についての話を聞いたからだ。祖父は、今年に入ってからロボットトラクタを導入し、作業の一部を自動化した。そのおかげで、農地を耕したり種をまいたりすることに加え、草を取りのぞく作業も効率よく進むようになったという。負担が軽減したことをよろこんでいる祖父に、他に取り入れているものはないかを聞いてみた。すると、「スマート農業に関連する様々な先端技術はあるが、これまでの経験を生かして対応できるので、他には取り入れていない。」とのことだった。スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。

しかし、祖父母は、自分たちに必要なものを選択して活用していた。これは、私たちも意識しなければならないことだと思った。今後、身の回りに普及していくだろう。私も祖父のように、目的に応じて術を活用していきたい。

《条件1》 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を引用して書くこと。引用する部分は、かきかっこ（「」）でくくること。

《条件2》 「例えば、」に続けて書くこと。

【コメントの一部】

上野
他にどのような効果があるのかを具体的に書いた方がよいのではないだろうか。

中村
私も同感です。スマート農業の効果を書き加えることで、小林さんが、自分の考えの根拠として示しているこの段落の内容が分かりやすくなると思います。

上野さんと中村さんのコメントから意見文の課題を把握する。

コメントを受けて小林さんが集めた資料を読み取り、必要な情報を抜き出す。

【農林水産省のウェブページにある資料の一部】

スマート農業について

「農業」×「先端技術」＝「スマート農業」

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のこと。

→「生産現場の課題を先端技術で解決する！農業分野におけるSociety5.0[※]の実現」

※Society5.0：政府が提唱する、テクノロジーが進化した未来社会の姿

スマート農業の効果

- ① 作業の自動化
ロボットトラクタ、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に
- ② 情報共有の簡易化
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に
- ③ データの活用
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に

（農林水産省ウェブページによる。）



問題の詳細は左のQRコードより確認することができます。

この問題は、小林さんが国語の時間に「先端技術との関わり方」というテーマで意見文を書いており、小林さんが書いた【意見文の下書き】につけられた友だちのコメントを受けて、必要な情報を集め、意見文を完成させることを目的としています。

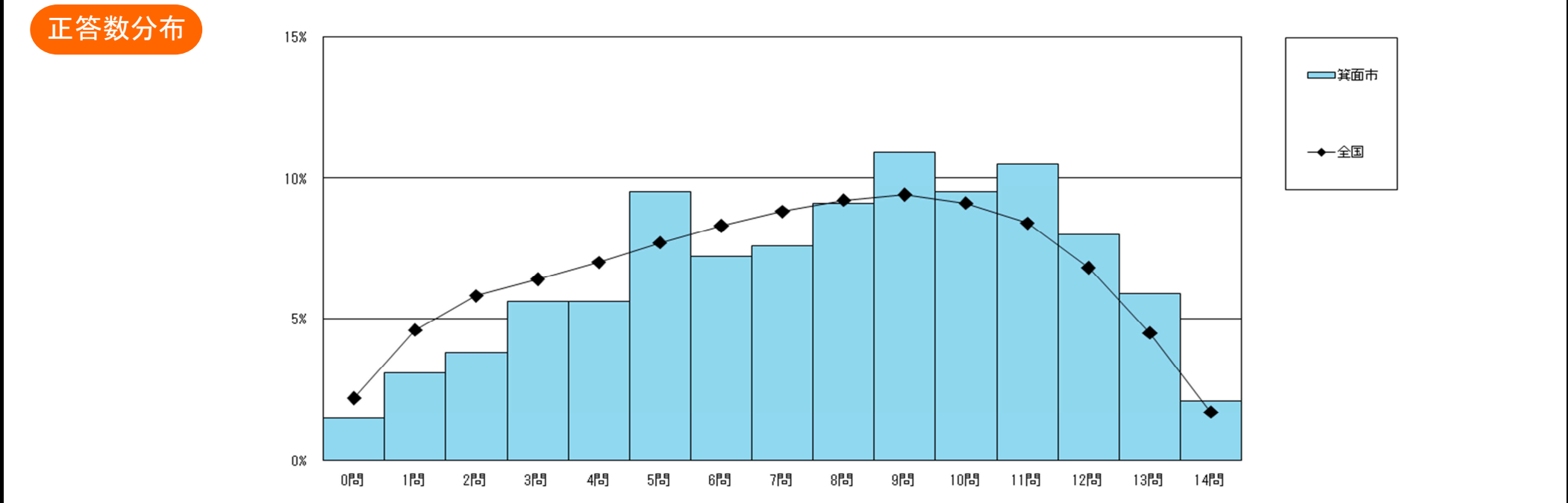
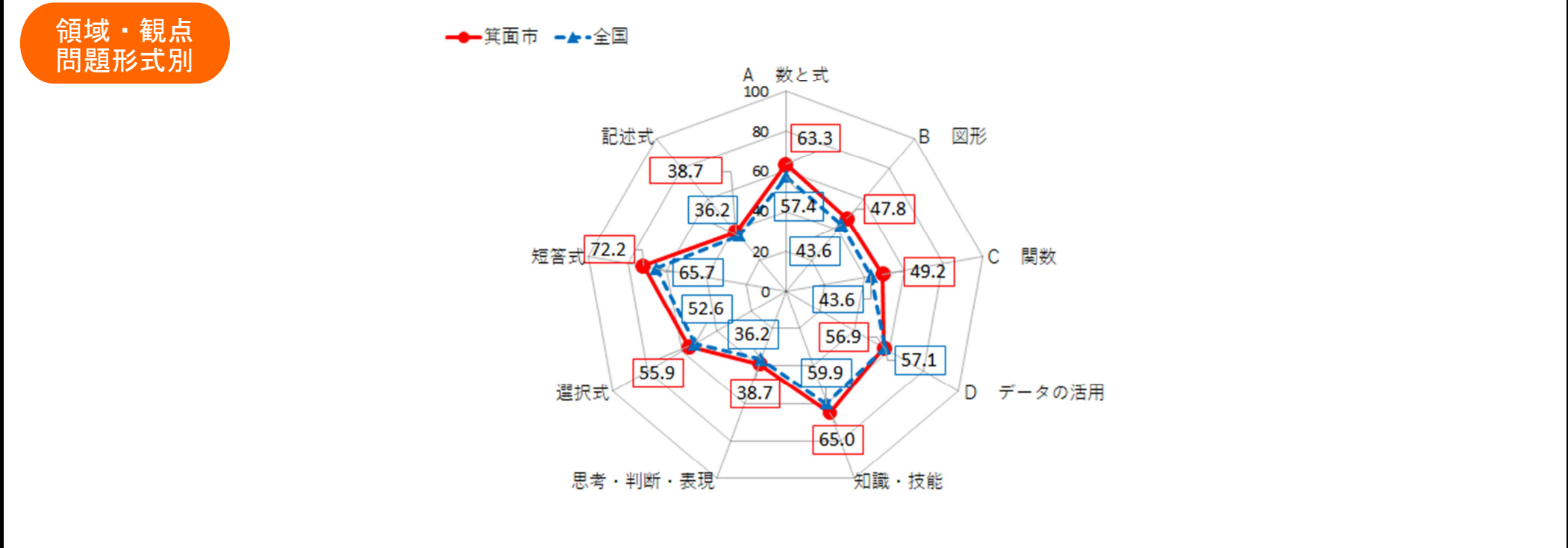
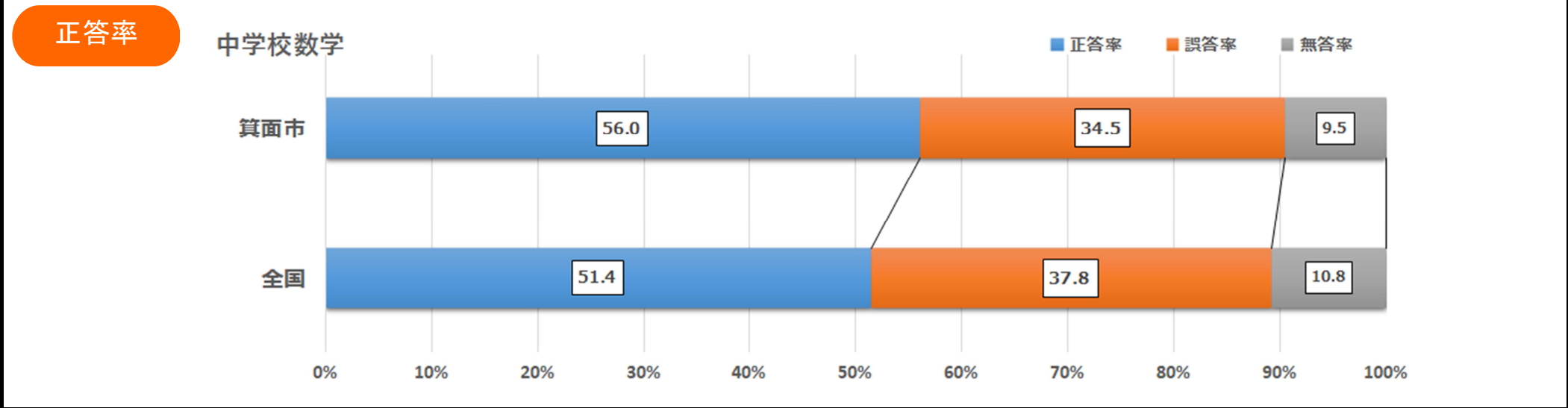
上野さんと中村さんのコメントの一部を踏まえて、【農林水産省のウェブページにある資料】から情報を読み取り、自分の意見文に適切に反映させることが求められます。

情報を取り出し、根拠を基に自分の考えを書き表そう

今回の問題では、友だちからのコメントを受けて、収集した情報から必要な部分を適切に自分の意見に反映させ、根拠を明確にして書くものでした。コメントでは、スマート農業の効果には「作業の自動化」以外でどのようなものがあるのか書き加えることをアドバイスされており、「情報共有の簡易化」や「データの活用」の部分を引用する必要がありました。

国語科の学習においても、急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められています。話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解したり、自分のもつ情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることが重要となります。

また、様々な情報が氾濫している現代社会においては、情報の信頼性を十分吟味する必要があります。情報を受信する際にも発信する際にも、その情報の事実関係や裏付ける根拠、一次情報の発信元や発信時期など、情報の信頼性について確かめることが大切です。例えば、インターネットであれば、同じ事柄に対する複数の情報源から収集した様々な情報を照らし合わせながら確認することや一つの情報だけで確認するのではなく、複数の情報に当たることが重要です。



数学から見えてくること

ほとんどの領域、観点、問題形式において、全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は概ね良好です。

○領域別では、「数と式」の領域が、全国の平均正答率を最も上回りました。(全国比＋5.9ポイント)

- ・自然数を素数の積で表す問題(全国比＋8.1ポイント)

○観点別では、「知識・技能」の観点が、全国の平均正答率を最も上回りました。(全国比＋5.1ポイント)

- ・一次関数の変化の割合の意味を理解し、適切な表を選ぶ問題(全国比＋9.7ポイント)

△領域別では、「図形」の領域で、全国の平均正答率は上回ったものの(全国比＋3.2ポイント)、市の平均正答率が最も低い結果となりました。

- ・反例の意味を理解し、選択肢の中から正しい項目を選ぶ問題(全国比＋2.0ポイント)

△領域別では、「データの活用」の領域で、全国の平均正答率を下回りました。(全国比－0.2ポイント)

- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題(全国比－2.6ポイント)

→課題があった問題(裏面に記載)

数学 全14問のうち、全国の平均正答率より低かった問題

7 学級でコマ回し大会をします。この大会では、次の図のようなヒモを引いて回すコマを使って一人1回コマを回し、最も長い時間コマを回した人を優勝とします。



大地さんと葉月さんは、コマAとコマBのうち、どちらのコマを使うかを検討することにしました。

(1)

二人は、どちらのコマがより長い時間回りそうかを調べるために、2つのコマを20回ずつ回し、それぞれのコマが回った時間のデータを集めました。そして、それぞれについてヒストグラムをつくり、それらを比較して考えることにしました。

下の図1、図2のヒストグラムの特徴をもとに、より長い時間回りそうなコマを選ぶとすると、あなたならどちらのコマを選びますか。下のア、イの中からどちらか一方のコマを選びなさい。また、そのコマを選んだ理由を、2つのヒストグラムの特徴を比較して説明しなさい。どちらのコマを選んで説明しても構いません。

ア コマA

イ コマB

図1 コマAが回った時間

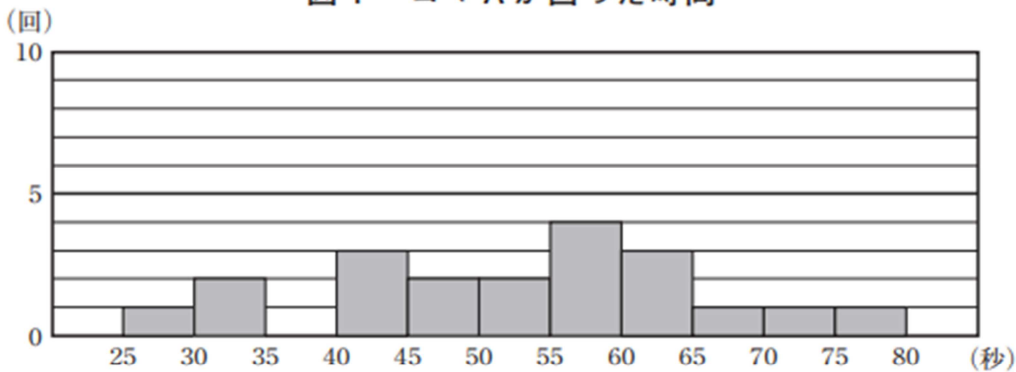
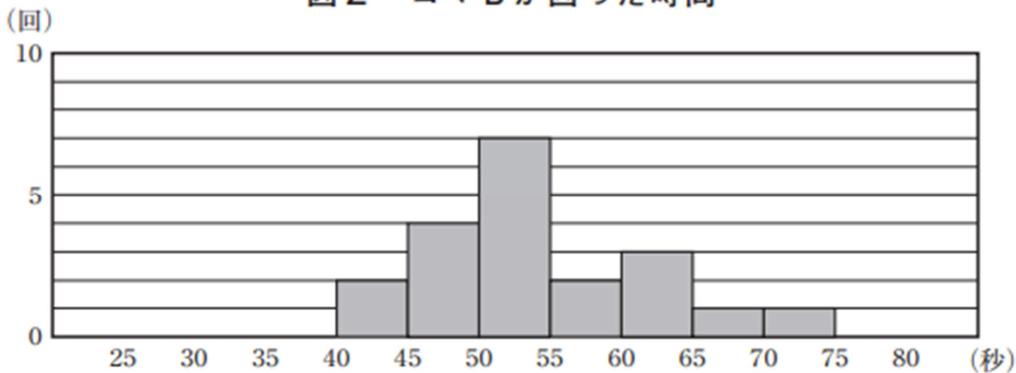


図2 コマBが回った時間



(2) では、箱ひげ図からコマの特徴を読み取る問題が出ていたでござる。さまざまなグラフの読み取り方を理解しておく必要があるでござる。



この問題の正答率は41.4%だったよ！ただ、「どちらのコマを選んで説明してもよい」という設定だったからか、無答率は低かったよ。問題は右上のQRコードから見れるよ。

(正答の条件)

【アを選択した場合】

次の(a), (b), (c)のいずれかについて記述しているもの。

(a) コマAの55秒以上(60秒、65秒、70秒、75秒以上でも可)の各階級の度数の合計が大きいこと。または、コマBの55秒以上(60秒、65秒、70秒、75秒以上でも可)の各階級の度数の合計が小さいこと。

(b) コマAの55秒未満(60秒、65秒、70秒、75秒未満でも可)の階級の度数が小さいこと。または、コマBの55秒未満(60秒、65秒、70秒、75秒未満でも可)の階級の度数が大きいこと。

(c) コマAの最大値が大きいこと。または、コマBの最大値が小さいこと。

【イを選択した場合】

次の(d), (e), (f)のいずれかについて記述しているもの。

(d) コマBの50秒以上(45秒、40秒、35秒、30秒以上でも可)の各階級の度数の合計が大きいこと。または、コマAの50秒以上(45秒、40秒、35秒、30秒以上でも可)の各階級の度数の合計が小さいこと。

(e) コマBの50秒未満(45秒未満でも可)の階級の度数が小さいこと。または、コマAの50秒未満(45秒、40秒、35秒、30秒未満でも可)の階級の度数が大きいこと。

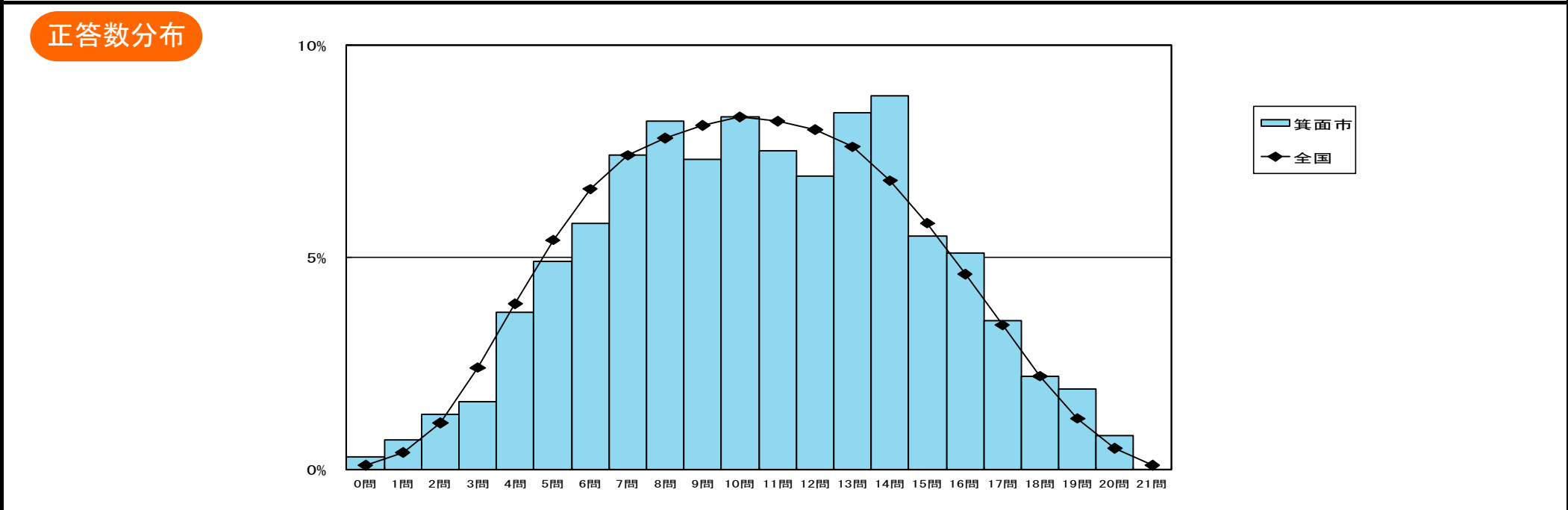
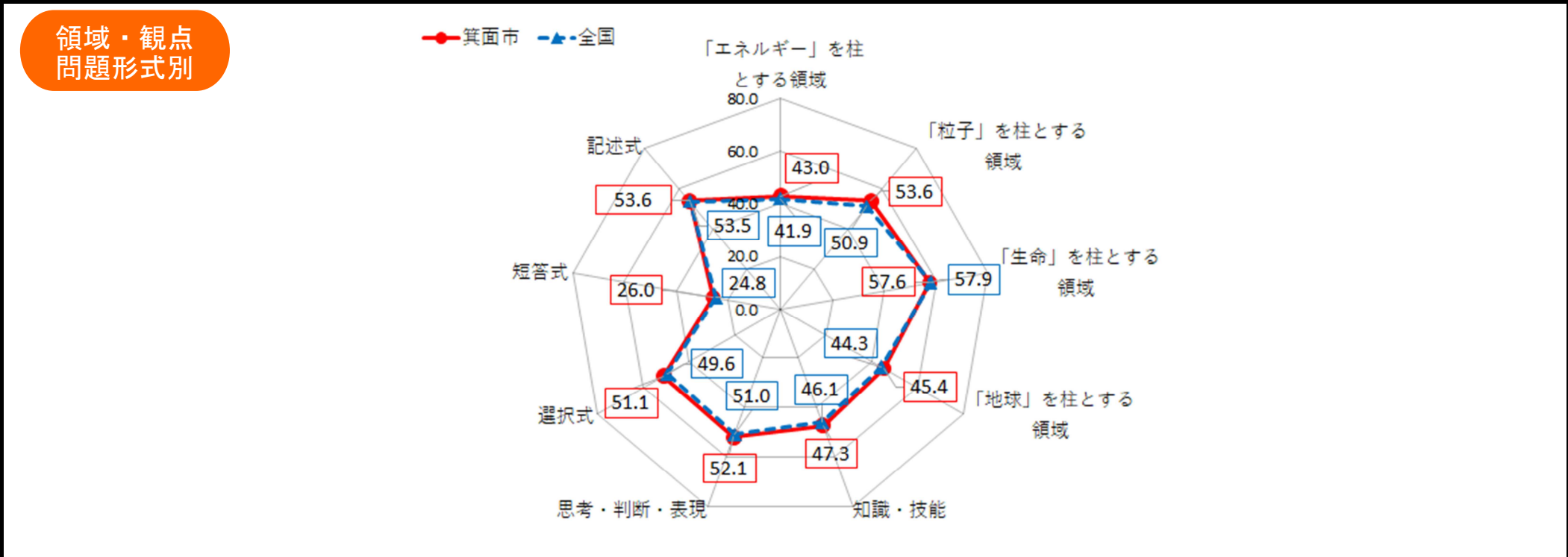
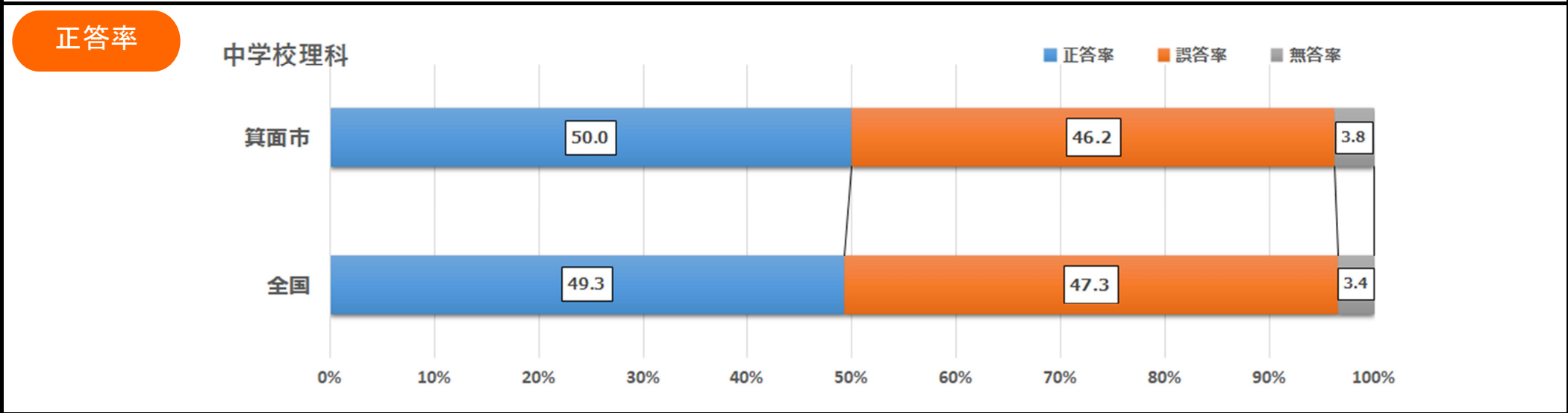
(f) コマBの最小値が大きいこと。または、コマAの最小値が小さいこと。

この問題では、データの傾向を的確に捉え、「コマA、コマB」を選んだ理由を数学的な表現を用いて説明する力が求められます。

正答の条件にあるように、それぞれのコマの必要な階級の度数の合計等に着目し、その特徴について比較した内容を記述する必要があります。

必要な情報を得て判断し、説明できる力が求められています！

学習指導要領で示されているように、「目的に応じて情報を収集・処理し、そこから傾向を読み取って判断したり、その判断の結果や結論を批判的に考察したりする力」が求められています。また、「判断や結論付けた理由を、データやグラフなどの情報を根拠にして数学的に説明する力」も必要です。そのために、日々の授業では、得た情報をそのまま受け取るのではなく、目的に応じた情報を精選して多面的に吟味し、検討や議論を重ねながらよりよい解決や結論を見い出すような課題解決学習を進め、批判的思考力を育みます。



理科から見えてくること

ほとんどの領域、観点、問題形式で全国平均を上回っていますが、全体的に他の教科と比べて正答率が低い結果となりました。

○「粒子」を柱とする領域は、全国の平均正答率と比べて2.7ポイント上回りました。

- 水の質量の変化について、適切なものを選択する問題は、全国の平均正答率と比べて4.3ポイント上回りました。
- 液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する問題は、全国の平均正答率と比べて3.5ポイント上回りました。

△「生命」を柱とする領域は、全国の平均正答率と比べて0.3ポイント下回りました。

- 節足動物の外部形態の違いについて、生活場所や移動の仕方と関連付けて、理由を説明する問題は、全国の平均正答率を1.9ポイント下回りました。
- 昆虫の生態を調べる実験の結果を読んで、考察を記述する問題は、無答率が全国の平均値より2.3ポイント高く、正答率は全国の平均値よりやや下回りました。

→課題があった問題(裏面に記載)

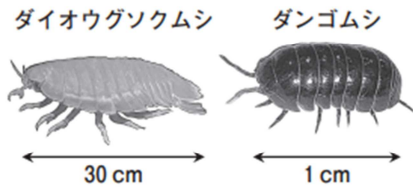
理科 全21問のうち、全国の平均正答率と比較して正答率が低かった「生命」の領域に関わる問題

4 動物の体のつくりとはたきの共通点や相違点に着目し、科学的に探求した内容を2つのレポートにまとめました。

レポート1の一部

【水族館の展示から】

ダイオウグソクムシは深海で生活しており、ダンゴムシと同じ甲殻類(エビやカニのなかま)である。



【疑問】

ダイオウグソクムシとダンゴムシは、同じ甲殻類であるが、体のつくりとはたらきは、どこまで似ているのか。

【課題】

ダイオウグソクムシとダンゴムシの体のつくりとはたらきの共通点と相違点は何か。

【調べたことと結果】

調べたこと	ダイオウグソクムシ	ダンゴムシ
食べもの	動物の死がい	落ち葉、動物の死がい
あしのようす	 泳ぐのに用いるあしがある	 泳ぐのに用いるあしがない
体の表面	外骨格	外骨格
子のうまれ方	卵生	卵生

【考察】

.....

(1) ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしのようすが異なる理由として、考えられることを書きなさい。

8 『ファーブル昆虫記』を読んで、アリの行列のつくり方に興味をもち、科学的に探求しました。

レポートの一部

【課題1】

アリは、視覚による情報をもとに行列をつくるか。

【実験1】

① 図のように行列を覆い、10分間まわりの景色を見えなくする。

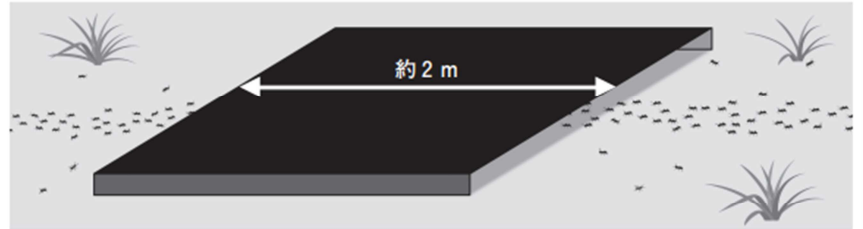


図 覆いをしたようす

② 覆う前後の行列のようすを写真に撮り、比較する。

③ ①と②の操作を別のアリの行列で3回繰り返す。

【結果1】

6月9日(13時から15時) 場所: 中央公園			
覆いをする前			
覆いをした後			
	1回目	2回目	3回目

【考察1】

この実験の結果からは、アリの行列のようすは ので、 と考えられる。

(1) , に当てはまる適切な言葉をそれぞれ書きなさい。

(正答の条件)

- ① アリの行列が変化しなかったことについて記述している。
- ② アリは、視覚による情報を基に行列をつくらないことについて記述している。

(正答例)

P: 変化しない

Q: 視覚による情報をもとに行列をつくらない



この問題では、ダイオウグソクムシとダンゴムシそれぞれのすみかのちがいが、体のつくりと関係していることを資料から読み取ることが大事だね！問題はQRコードから見れるよ！



この問題は、観察したムシたちの足のつくりについて、生活場所や移動の仕方と関連付けて考察できるかどうかを問う問題です。ダンゴムシとダイオウグソクムシのからだのつくりのちがいに気付き、その理由について資料から適切な情報を読み取ることが大切です。



この実験は「アリは、視覚による情報をもとに行列をつくるか。」という課題を解決するための実験でござるよ。何のために実験をしているか、普段から考えることが大事でござる。

この問題では、 の部分での誤答が多く見られる結果となりました。実験を行う時、「課題で明らかにしようとしていることは何か」を意識して考察することが大切です。

観察や実験をとおして、共通点、相違点を見だし、分類しよう！

学習指導要領には、「身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現する力を身につける」と記載されています。

身近な生物についての観察や実験などを通して、興味関心を高めることが大切です。また、話し合いやレポートの作成、発表の機会を持つことで表現する力も身につきます。

令和4年度箕面市児童生徒「学習状況調査」結果から

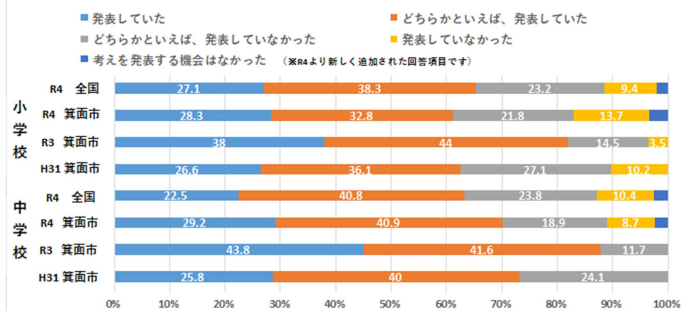
日々の積み重ねを力に、羽ばたく子どもたち

学習状況調査は、アンケート形式で児童生徒からの回答を求めるものです。学力状況調査の結果と関連がある学習状況の質問項目については、概ね良好な結果でした。肯定的な回答をする児童生徒の割合が全国と比べて低い項目がいくつかありますが、多くの質問項目について、肯定的な回答の割合が高くなってきています。日々の積み重ねを元に力をつけている子どもたちの様子が伝わってきました。以下、今回の調査結果から見える箕面の子どもたちの様子について、いくつかの視点に絞って考察します。

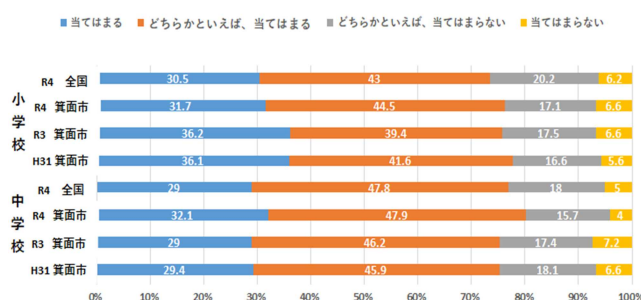
学校生活の様子

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、調査を実施していません。

5年生（中学1、2年生のとき）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



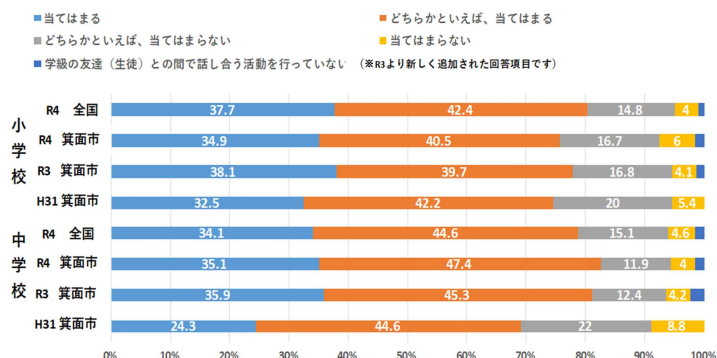
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。



今年度は中学校で全国を上回り、小学校で全国を下回りました。自分の考えを発表する機会を多く作り、また発表するだけでなく、どうすればうまく伝わるかを考えることにこだわった授業づくりを今後も継続していく必要があります。

発表する、伝えるだけでなく、話し合った結果を生かしているかという質問に対しては、小学校と中学校の両方で全国より高い数値となりました。児童生徒が自主的に問題解決に向かうことができる環境を今後も整えていきます。

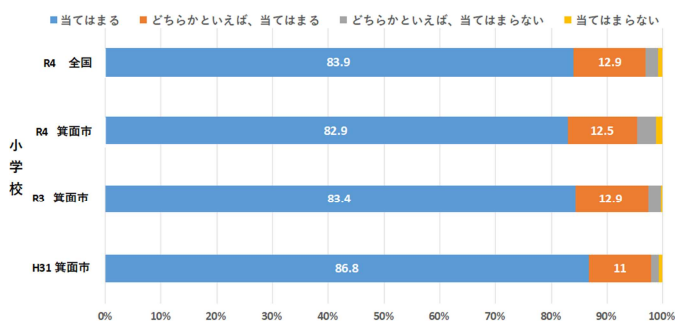
学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



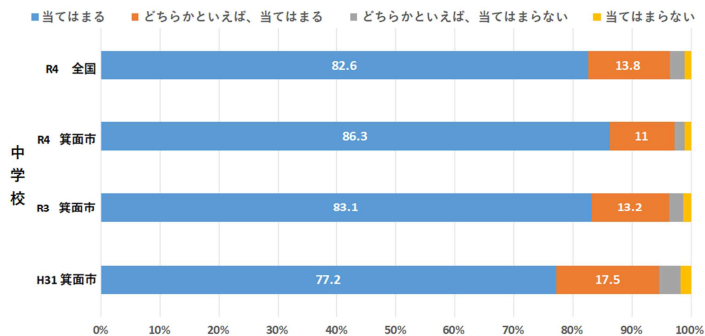
左のグラフは、学級会等で話し合った結果（右上のグラフ）、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますかという質問です。今年度は中学校で全国を上回り、小学校で全国を下回りました。小学校の時から発表したり話し合ったりすることで、多様な意見に触れる機会を多く作る必要があります。

いじめについて

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



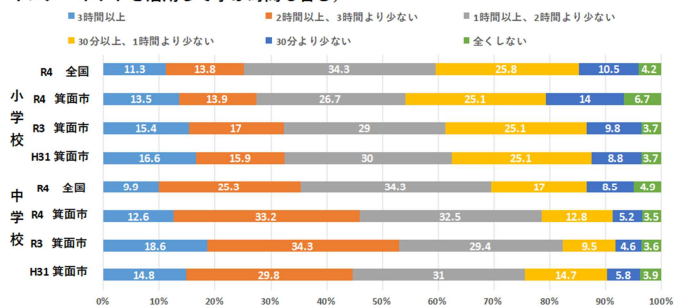
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



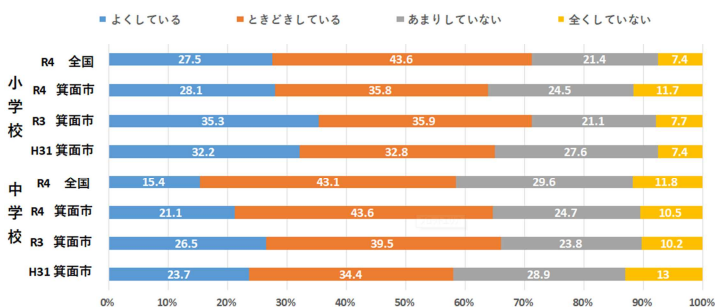
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して「当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、中学校は全国と比べると3.7ポイント高い数値でした。平成31年度と比べて、「当てはまる」と答える生徒が年々増えています。小学校は全国と比べて、少し下回る数値となりました。また、小・中学校でも「当てはまらない」と回答している児童生徒がいます。「いじめはなぜいけないことなのか？」についての授業を実施し、箕面市全体のいじめに対する意識を高めていきたいと考えています。

家庭での学習

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



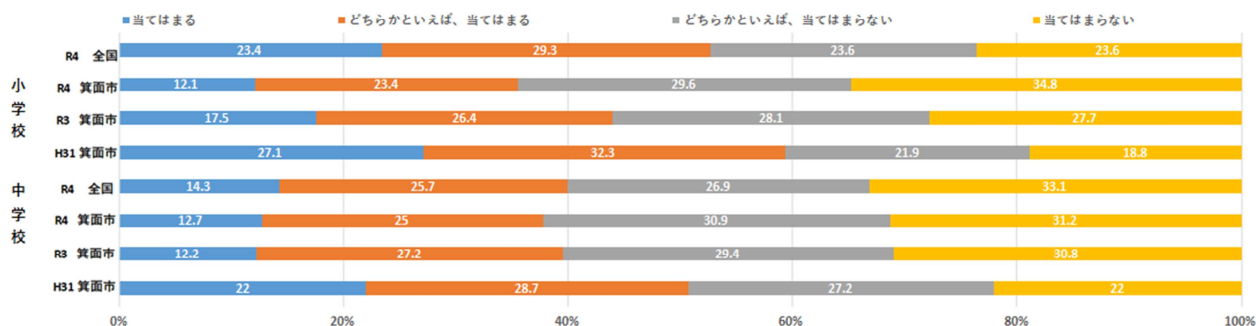
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。



「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問で「2時間以上」と答えた子どもの割合は全国平均より小学校、中学校ともに高い結果となりました。また、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という質問で、「よくしている」と答えた児童生徒の割合も、全国平均より小学校、中学校ともに高い結果となりました。学校で学んだことを確実に身につけ、学力を伸ばすためには、家庭学習が大切です。学校からは、読み・書き・計算などの反復学習の宿題がよく出されます。反復学習で学習内容の定着をはかりながら、学校での勉強を活かした発展的な学習を、自分で目標を決め、計画的に取り組むことを大切にしていきます。主体的に学習する力が積み重なり、深い学びに繋がっていくことが期待されます。

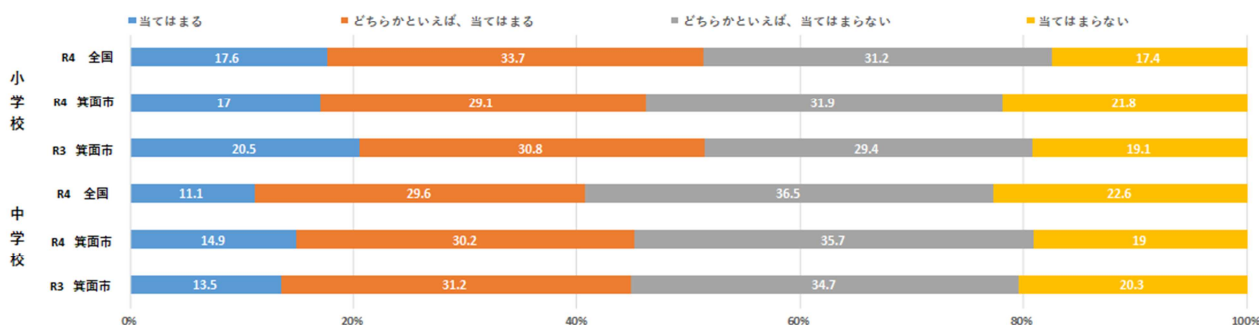
地域や社会との関わり

今住んでいる地域の行事に参加していますか



※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、調査を実施していません。

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

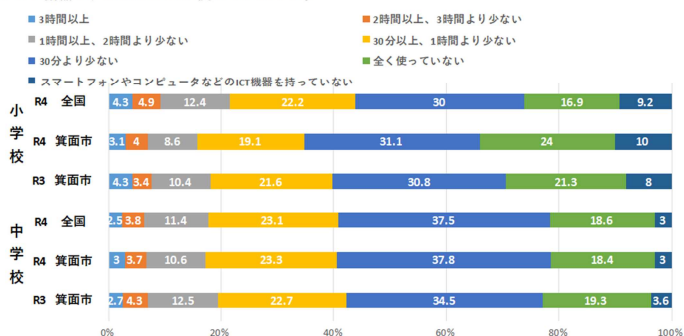


「地域行事に参加している」と、回答している小・中学生の割合が全国平均値を下回っています。平成31年度から比べると、年々減少傾向にあります。令和4年度にかけては、新型コロナウイルス感染症拡大による地域行事の延期・休止等もあり、数値が落ち込む結果となっていると考えられます。

「地域や社会をよくしていきたい」という考えをもつ児童生徒の割合は、中学校では全国平均と比べて、上回っています。小学校では全国平均、令和3年度と比べて、下回る結果となりました。学校では日頃から、地域と関わりながら学習に取り組んでいます。今後も児童生徒たちが社会に対して課題意識を持ち、協働しながら解決する活動を通して「自分が住む地域を好きになり、社会をよりよくしたい」と思う児童生徒を育んでいきます。

ICT への関心について

普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。

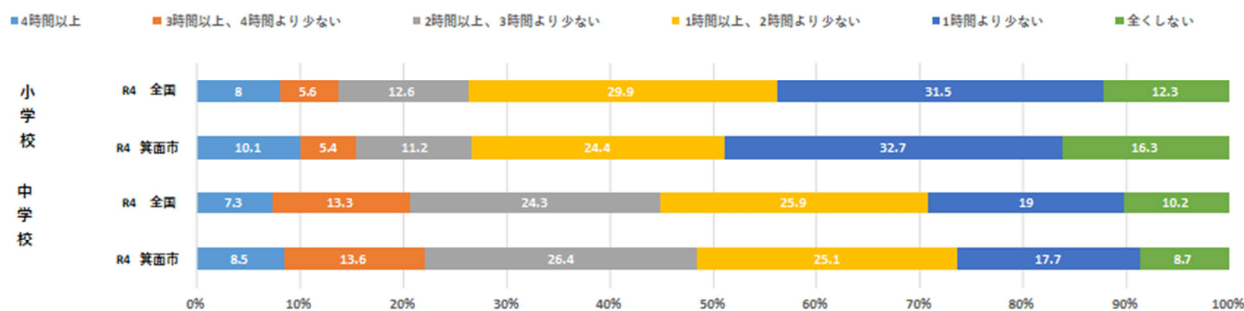


「1日あたりICT機器を勉強のために使っている時間」について、小学校では「30分以上使用している」と答えた児童の割合が全国平均、令和3年度と比べて、下回っています。

また、中学校では「3時間以上使用している」と答えた生徒の割合が全国平均を上回っており、学習の場にICT機器が定着して来ていると思われます。今後もICT機器を学習の様々な場面で効果的に活用できるよう取り組みを進めていきます。

自分自身について

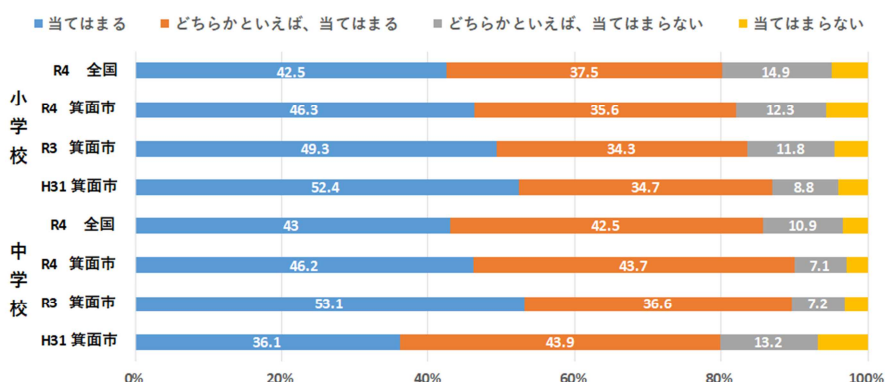
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



「学校が休みの日に、どれくらいの時間勉強しているか」について、中学校では70%以上の生徒が「1時間以上の勉強をしている」と回答し、全国平均を上回っています。土曜日や日曜日などの休みの日に進んで勉強をしていることがわかります。小学校では、「4時間以上勉強している」と回答している児童が全国平均と比べて2.1ポイント上回っています。学習塾に通ったり、家庭教師と勉強したりしている児童生徒が増えている結果ではないかと考えています。小学校では家庭とも連携し、さらに勉強する時間が定着するようにしていきます。

<道徳>

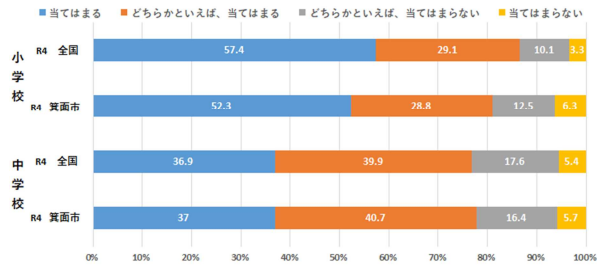
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。



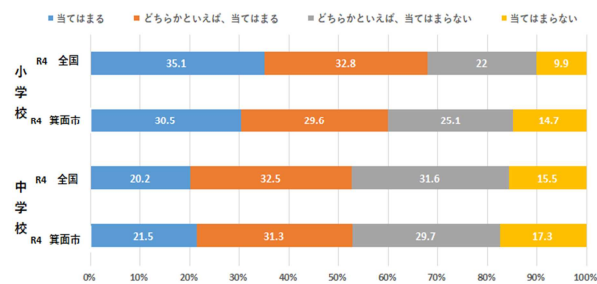
「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という質問に、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに全国平均より高い結果となりました。中学校では、平成31年度から年々高くなっています。しかし、小学校では平成31年度から年々減少しています。よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳では、学習の中で他者と対話したり協働したりしながら「物事を多面的・多角的に考える」ことが求められています。今後も他者の多様な感じ方や考え方に多く触れ、自分の考えを伝えあう機会を作り、自己を深く見つめられるような学習にすることを強く意識していきます。

<理科>

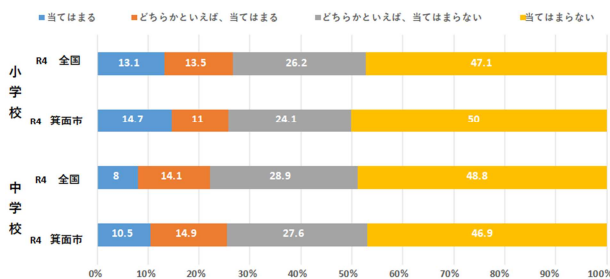
理科の勉強は大切だと思いますか。



理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。



将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか。

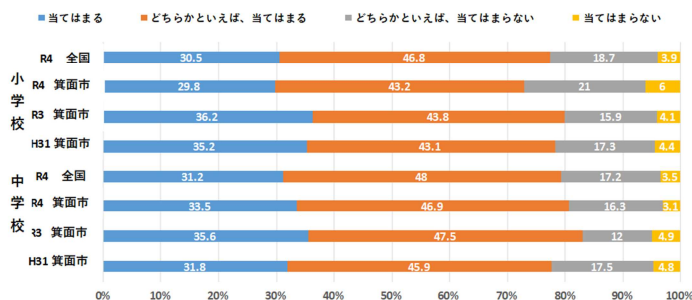


「理科の勉強は大切」「普段の生活の中で活用」の項目では、肯定値について中学校は全国とほぼ同等であり、小学校は低い傾向です。「理科や科学技術に関する職業に就きたいか」の項目は、中学校は全国をやや上回っています。将来の夢や目標、進路選択についての取り組みが各校で積極的に行われ、理科などの教科学習を将来の進路選択と具体的に結び付けて考えているからではないかと思われます。

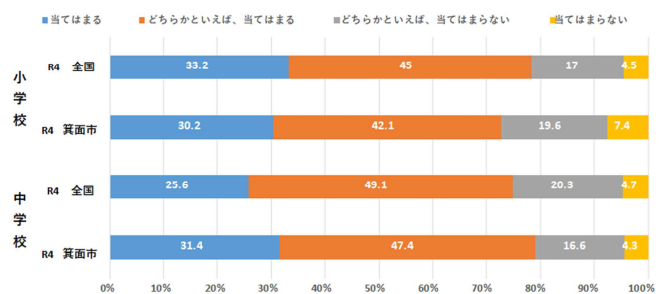
児童生徒が常に知的好奇心をもって自然の事物・現象に接し、科学的な知識や概念を活用したり実社会や実生活と関連付けたりしながら、理科の面白さを感じ、有用性を認識できる工夫を進めていきます。

<授業・学習への関心>

5年生までに（中学1、2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、調査を実施していません。

これらの項目について、小学校は70%以上が肯定的な値であるものの、全国よりやや下回りました。一方で中学校は上回っており、課題の解決に向けて自ら考え、意欲的に学びに向かう姿勢が現れています。このような「学びに向かう力」は、自らの可能性を切り拓く重要な資質・能力です。児童生徒が、授業や学習を実生活や自分の将来と結び付けて理解し、授業・学習への関心を高めるよう、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点を大切にした取り組みを進めていきます。

調査全体のまとめ

新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校の教育活動も大きく変化しています。様々な感染症対策を講じながら、子どもたちの学びを止めない取り組みを進めていますが、コロナ禍を機に、「様々な変化に対応しながら、多様性を生かしつつ、未来を切り拓く力をどう高めていくか」が改めて考えるべき課題となりました。このような力を育むためには、子ども主体の学習を進めていく必要があります。「自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」という質問で「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」という回答は、全国平均より小学校で 0.9 ポイント高く、中学校では 7.7 ポイント高い結果となりました。今後も基礎的な知識や技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成をより大切にしていきます。

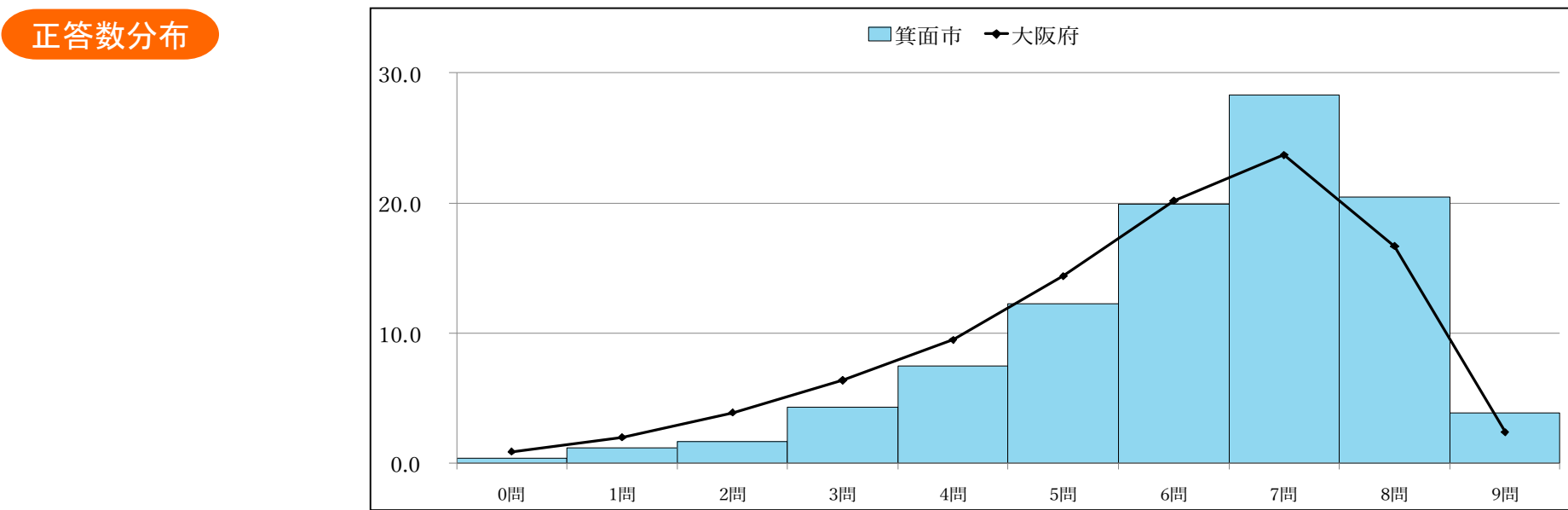
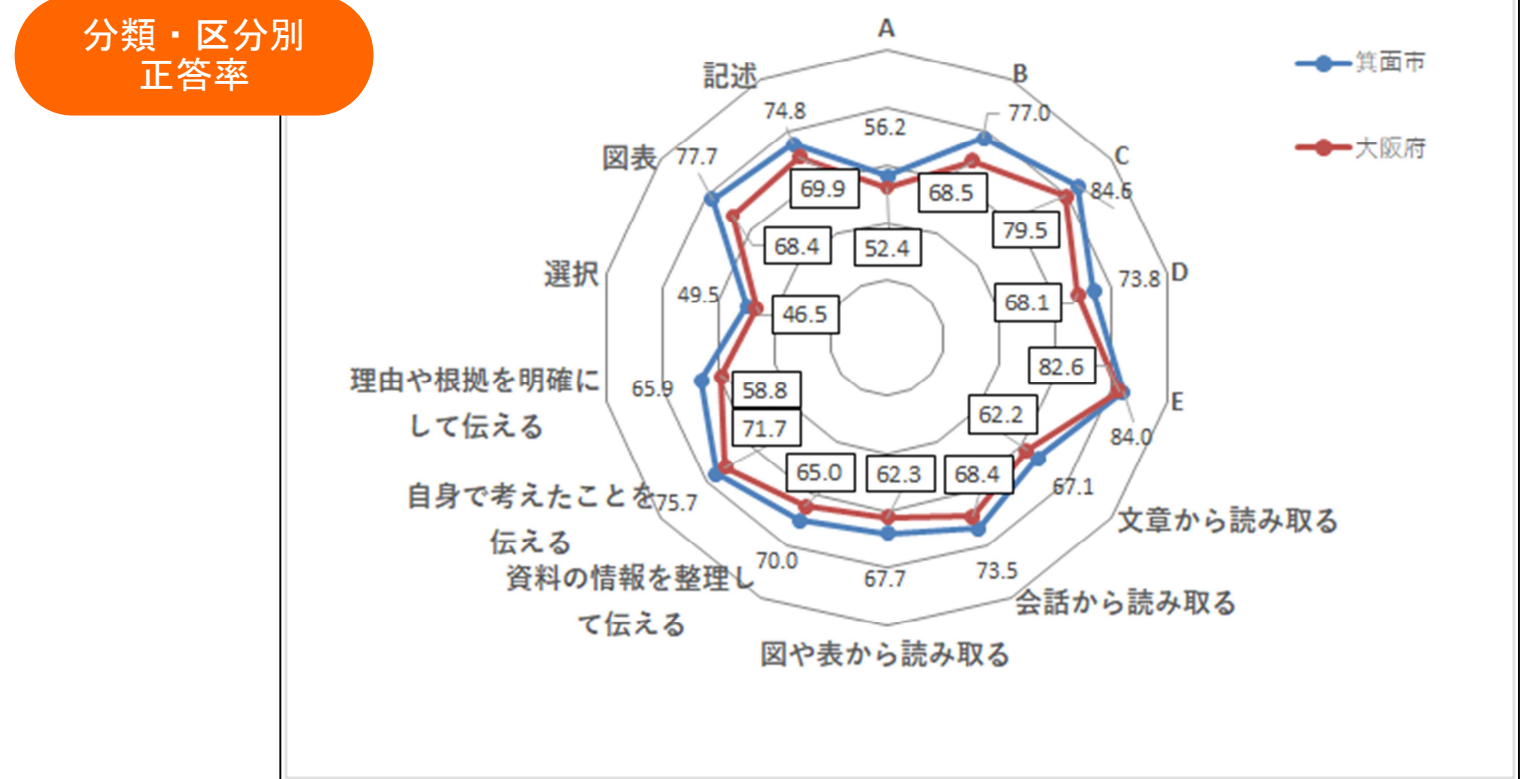
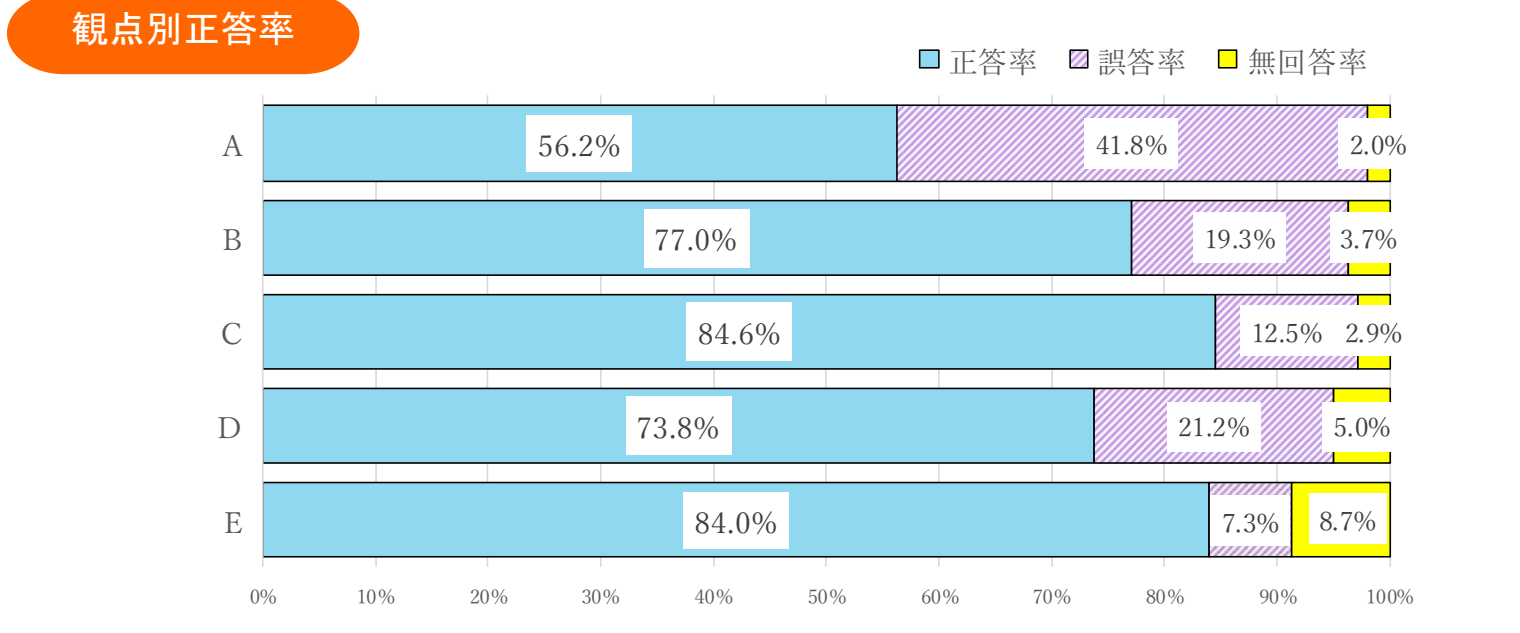
また、教育のデジタル化が進み、子どもたちの学びを保障するためにデジタル化が効果的な手段となることが期待されています。しかし、個人情報保護や過度なデジタル依存による弊害など、デジタル化の負の側面にも適切に配慮していかなければなりません。「携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して、そもそも「家の人との約束がない」と答えた小学生が 11.0%、中学生が 12.8%いることもわかりました。子どもたちの生活が大きく変わる中で、学校、家庭、地域が連携して、子どもたちの育ちや学びを支えていくことがより一層求められています。

🔑 「いじめ」について 🔑

「いじめ」への対応と防止について、学校や教育委員会の責務を規定した「いじめ防止対策推進法」という法律があります。これは滋賀県大津市で起きたいじめ自殺事件を受けて、平成 25 年(2013 年)6 月に成立しました。この法律では、「いじめ」を、「当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」と定義しています。つまり、「他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為」により「対象の児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」であれば、それは「いじめ」であるということがこの法律の制定により、明確となりました。加えて、箕面市では令和 3 年度末に学校いじめ防止基本方針を改訂しており、「心身の苦痛を感じていると訴えることが難しい児童生徒もいることから、いじめ行為の対象となる児童生徒の認識にかかわらず、障害特性を有する児童生徒を含め、すべての児童生徒の尊厳を損なう行為は「いじめ」と認識し、法に沿った対応を行うこととする」と新たに定義付けをしています。この方針に沿った対応を各校で行い、子どもたちの声を拾って、「いじめを許さない環境づくり」を達成できるように努めていっております。

箕面市では、いじめの早期発見・早期対応はもちろんのこと、いじめの未然防止に取り組むため、各校での生徒指導担当教員による校内研修や、教育委員会が全校の生徒指導担当の教員に対し、市内の状況を共有したり、未然防止・早期発見・早期対応するために日々心がけることを伝えたりする生徒指導担当者会を実施しています。全ての児童生徒が安全で、安心して学校生活を送るために、いじめ防止等の対策に取り組むことが重要で、「いじめ」がいじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす「許されない行為」であることについて、児童生徒が十分に理解しなければなりません。そのために、全ての学校の教職員が児童生徒の気持ちに寄り添って真摯に取り組むとともに、社会全体で児童生徒を見守り、健やかな成長を促していくことが必要であり、箕面市、箕面市教育委員会、学校、地域、家庭など関係者が連携していじめ防止等の対策を進めてまいります。

■わくわく問題の5つの観点	
多様な他者と協働し、探究的な学習を進め、生きる力を伸ばすために必要な力	
A	図や表、グラフ、短い文章、会話文等 に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。
B	図や表、グラフ、短い文章、会話文等 の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。
C	図や表、グラフ、短い文章、会話文等 の内容を関連付けて、新たな課題となる事がらを考える。
D	図や表、グラフ、短い文章、会話文等 の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。（プログラミング的思考）
E	興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。



わくわく問題から見えてくること

わくわく問題とは、特定の教科の枠にとらわれない教科横断型問題です。

- 文章や絵、図、表、グラフ、ホームページなどを読んで、自分の考えを書くなどの問題です。
- 答えは記号を選んだり、文章を書いたり、図に色を塗ったり、絵を描いたりします。答えが1つでないものもあります。

わくわく問題(教科横断型)では、すべての領域、観点、問題形式で大阪府の平均正答率を上回っています。

- 「興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える」問題の平均正答率が良好でした。
- 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事がらを考える」問題は、大阪府の平均正答率より5.1ポイント上回りました。
- △「図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる」問題は大阪府の平均正答率より3.8ポイント高いですが、平均正答率が低く課題が見られました。→課題があった問題(裏面に記載)

課題が見られた問題 2-（2）（3）

(2) たかしさんは、実際に人が使うために開発が進む「自動で動く車」について調べ、次の資料を見つけました。

問い 資料1，資料2からわかることとして正しいものを、次のアからエまでのの中から1つ選びましょう

- ア：「自動で動く車」は、2015年には生産されていない。
イ：「自動で動く車」の生産台数は、2019年と比べると2030年は、304万台増えることが予想される。
ウ：「運転を支援する車」の生産台数は、2015年と比べると2030年は、3倍以上増えると予想される。
エ：2025年と2030年の予想生産台数を比べると、「運転を支援する車」は増えるが、「自動運転車」は減る。

資料1 【「自動で動く車」の分類について】

「自動で動く車」は、運転の一部を車が助けてくれる「運転を支援する車」と、すべての運転を車が行う「自動運転車」の大きく2つに分かれます。

	内 容
自動で動く車	運転を支援する車 アクセル※、ブレーキ、ハンドル操作のうち、一つまたは、複数の車が行う。 【例】 ・前の車にぶつかりそうなときにブレーキ操作を自動で行う。 ・高速道路で、車線の中央を走るようにハンドル操作を自動で行う。 ・高速道路で、一定の速さで走るようにアクセル操作を自動で行う。
	自動運転車 すべての運転を車が行う。ただし、高速道路など特定の場所でしか自動運転ができないなどの条件がある車もある。

※アクセル…ペダルをふむと車が加速する装置。

【解説と解答】 正答・・・イ

- ①資料1より、「自動で動く車」には「運転を支援する車」と「自動運転車」の2種類があることを読み取ります。
②資料2より、生産台数の移り変わりを読み取ります。正確な台数を把握する際には、計算が必要になります。
③選択肢アからエの正誤を、上記①と②で読み取った内容をもとに確かめます。すると、2019年の生産台数は535万台、2030年の予想生産台数は839万台となることから、選択肢イの『「自動で動く車」の生産台数は、2019年と比べると2030年は、304万台増えることが予想される』が正答となります。

【誤答について】

誤答の多くは、選択肢アの、『「自動で動く車」は2015年には生産されていない』を選んだものでした。資料1を見ると、「自動で動く車」には2種類あるとわかるのですが、資料2のみを見て、「自動で動く車」が自動運転車だけであると判断してしまったことが、誤答につながったと考えられます。



複数の文章や資料をもとに、必要な情報を整理して、活用する力を身につけることが大切でござる！

資料2 【日本で一年間に生産される「自動で動く車」の台数】

	2015年	2019年	2025年 (予想)	2030年 (予想)
運転を支援する車	265万台	535万台	886万台	756万台
自動運転車	0台	0台	4万台	83万台

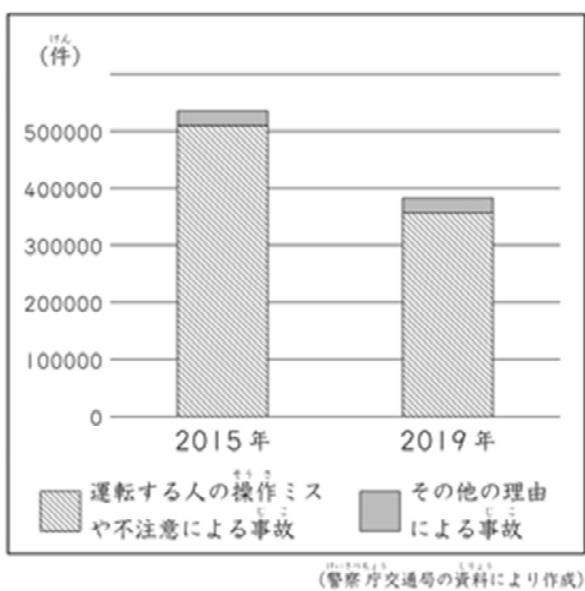
(3) たかしさんは「自動で動く車」の開発がなぜ進められているのかを調べ、次の資料3を見つけました。

問い たかしさんが____部のように考えたわけを、(2)の資料1，資料2と、次の資料3をもとに考えて書きましょう



資料1，資料2，資料3から考えると、日本で「自動で動く車」が増えていけば、交通事故の数がさらに減るかもしれない。

資料3 【日本で起きた交通事故の数】



【解説と解答】

- ①資料2と3より、2015年から2019年にかけて、「自動で動く車」が増えた一方で、交通事故の数が減っていることが読み取れます。
②資料3より、日本で起きた交通事故の原因のほとんどが、人による操作ミスや不注意であることが読み取れます。
③2つの資料から読み取った内容をまとめます。
正答例 2015年から2019年で「自動で動く車」は増えていて、交通事故の件数は減っている。「自動で動く車」が増えると、人による操作ミスが減ると思うので、「自動で動く車」が増えると、交通事故が減ると考えたから。

【誤答について】

2つの資料ではなく、1つの資料の情報のみで回答しているものや、2つの資料の中から、回答に必要な適切な情報を抜き出すことができていないものが見られました。複数の表やグラフをもとにして、情報を整理できなかったことが、誤答につながったと考えられます。

「なんでだろう」「面白い」を大切にしよう！

各教科で学んだことを生かして自ら課題を見つけ、友だちと知恵を出し合い、解決策を考えることを繰り返すことが大切です。そうすることで、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を身につけることができます。日ごろから、子どもたちの疑問や興味・関心を大切に、自ら学んでいこうとする意欲へとつなげる必要があります。



実際に問題を見たい場合は、このQRコードで見られるよ！



令和4年度 箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査

令和4年度(2022年度)箕面市平均／全国平均 記録一覧

							全国平均以上	箕面／全国
	握 力	上体起こし	長座 体前屈	反復 横跳び	20mシャ トルン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
単位	kg	回	cm	回	回	秒	m	m
小1男子						11.7/11.3	111.7/116.0	7.5/8.7
小1女子						12.0/11.7	103.4/107.8	4.9/5.7
小2男子						10.8/10.6	125.3/128.8	10.1/11.7
小2女子						11.1/11.0	118.7/121.7	6.6/7.6
小3男子						9.9/10.1	136.4/138.6	13.5/15.7
小3女子						10.5/10.2	129.8/129.8	8.7/9.8
小4男子				37.6/39.8	39.2/45.2	9.6/9.6	148.4/148.8	16.6/19.8
小4女子				35.5/38.4	29.0/36.6	10.0/9.8	139.1/143.7	10.5/12.4
小5男子	16.1/17.4	19.2/20.7	33.3/34.0	40.0/44.4	46.1/53.6	9.3/9.1	152.7/156.8	18.8/23.1
小5女子	15.6/17.3	17.3/19.2	36.6/39.8	38.9/42.8	34.4/41.8	9.6/9.4	146.6/149.2	11.6/14.2
小6男子	19.0/20.4	20.8/21.3	36.8/36.0	43.1/45.8	53.5/56.5	9.0/8.9	164.0/166.8	22.9/26.6
小6女子	18.8/19.8	18.7/19.6	40.8/40.5	41.0/44.0	40.6/46.4	9.3/9.1	154.1/158.1	14.0/16.5
中1男子	23.0/25.1	23.5/24.2	37.7/40.8	47.7/50.4	64.6/69.9	8.7/8.5	176.5/185.2	16.3/18.4
中1女子	20.8/22.1	20.5/21.3	42.4/43.2	43.7/46.8	44.8/51.7	9.2/9.0	159.3/166.7	10.1/11.9
中2男子	27.6/30.5	26.5/27.5	40.6/44.9	50.9/54.1	79.7/81.4	8.0/7.9	195.8/203.3	19.2/21.3
中2女子	22.8/24.1	22.8/22.6	45.1/47.6	45.9/48.5	53.4/58.6	8.9/8.7	164.3/173.8	11.1/13.3
中3男子	31.7/35.3	28.2/30.3	47.2/48.4	53.2/56.9	86.4/91.8	7.7/7.4	205.5/215.8	21.4/24.4
中3女子	24.0/25.9	23.9/24.3	48.1/48.9	47.0/49.2	52.8/55.6	8.8/8.7	168.3/175.8	12.7/14.4

令和4年度(2022年度)箕面体力・運動能力、運動習慣等調査 偏差値一覧

	握 力	上体起こし	長座 体前屈	反復 横跳び	20mシャ トルン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
単位	kg	回	cm	回	回	秒	m	m
小1男子						45.8▲	47.4▲	46.4▲
小1女子						47.3▲	47.3▲	45.5▲
小2男子						48.4△	48.2△	46.4▲
小2女子						49.3△	48.3△	45.8▲
小3男子						47.2▲	48.9△	46.0▲
小3女子						46.9▲	50.0	46.5▲
小4男子				46.9▲	46.9▲	49.4△	49.8△	45.9▲
小4女子				45.4▲	45.0▲	47.6▲	47.4▲	44.8▲
小5男子	46.2▲	47.3▲	49.1△	44.0▲	46.3▲	46.8▲	47.9▲	44.9▲
小5女子	45.3▲	45.9▲	46.1▲	43.8▲	45.4▲	47.6▲	48.6△	44.2▲
小6男子	47.1▲	48.9△	51.0	45.8▲	48.7△	48.8△	48.8△	46.3▲
小6女子	47.5▲	48.1△	50.3	44.7▲	46.7▲	48.2△	48.1△	45.6▲
中1男子	46.4▲	48.7△	46.9▲	45.9▲	47.7▲	46.2▲	46.4▲	45.6▲
中1女子	46.7▲	48.5△	49.1△	44.8▲	46.2▲	47.3▲	46.5▲	45.2▲
中2男子	45.9▲	48.3△	45.9▲	45.8▲	49.3△	48.0△	47.0▲	46.3▲
中2女子	47.2▲	50.4	47.7▲	45.3▲	47.3▲	47.5▲	45.7▲	44.2▲
中3男子	45.0▲	46.2▲	48.8△	44.5▲	47.7▲	44.4▲	45.7▲	44.9▲
中3女子	45.7▲	49.3△	49.2△	46.5▲	48.6△	48.5△	46.6▲	46.9▲

※全国平均を基準にした偏差値

※数字および記号の表記

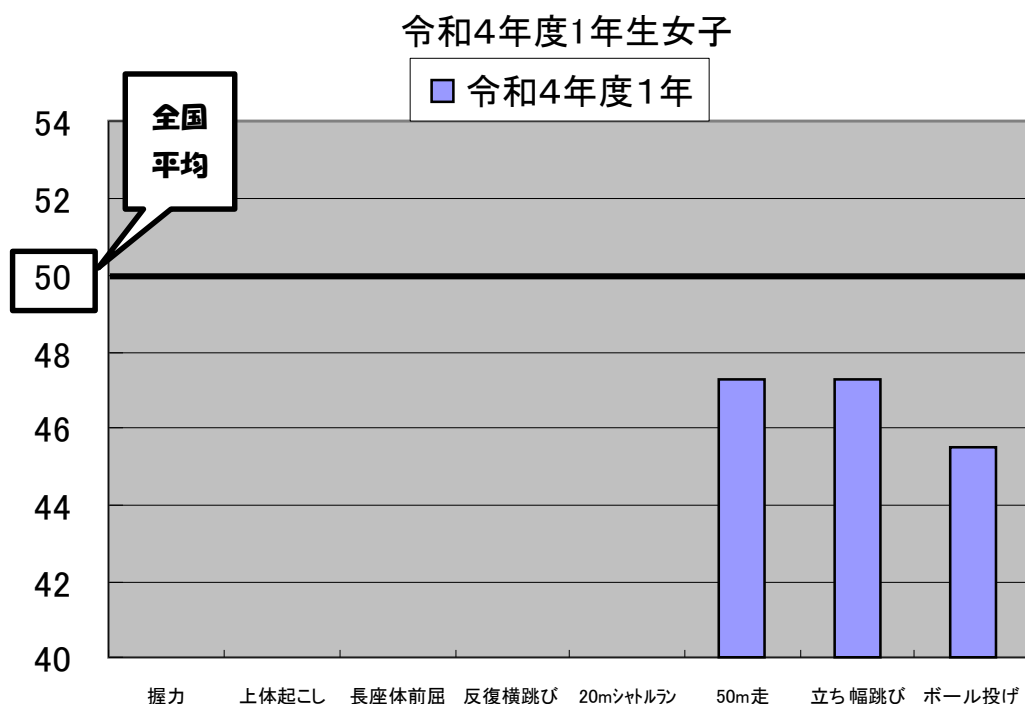
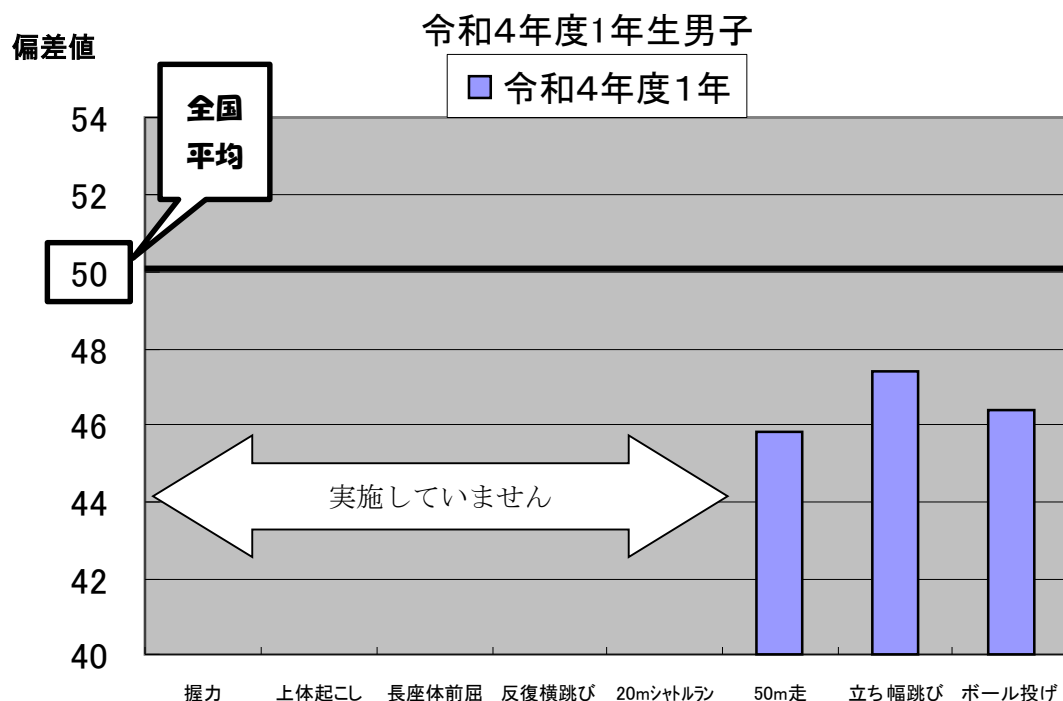
(50以上・・・白抜き 48以上50未満・・・△ 48未満・・・▲)

【概要】

- ◆ 小学校では、6年生男子と女子の「長座体前屈」、3年生女子の「立ち幅跳び」以外の種目において、全国平均値を下回りました。
- ◆ 中学校では、2年生女子の「上体起こし」以外の種目において、全国平均値を下回りました。
- ◆ 「握力」「反復横跳び」「ボール投げ」では、小1～中3の全学年において「▲」を示す結果となりました。

1 年生（小 1）

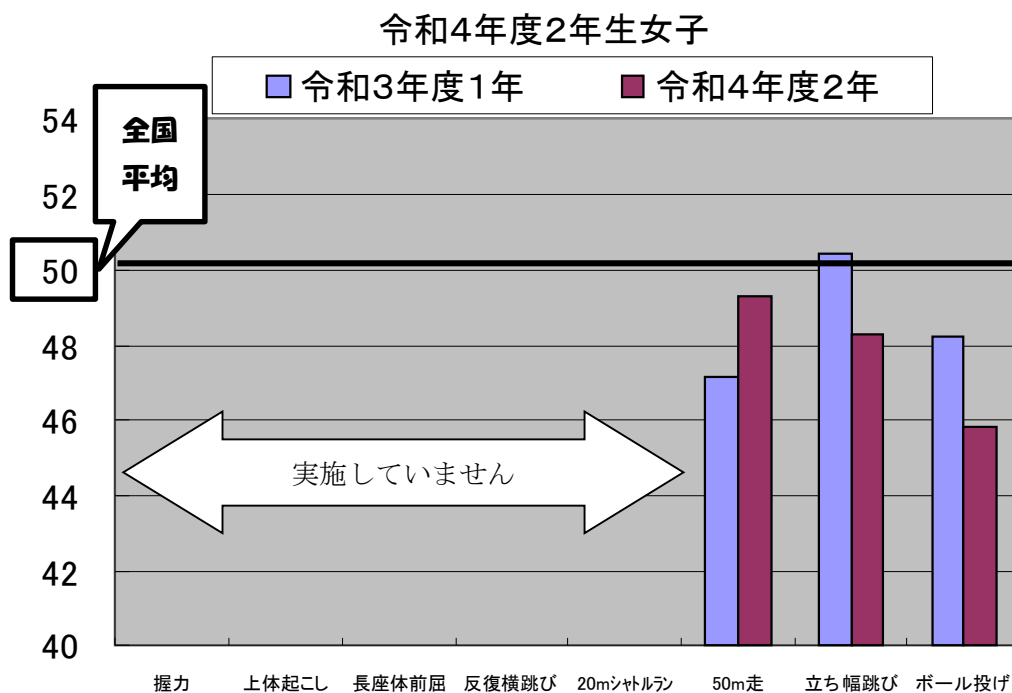
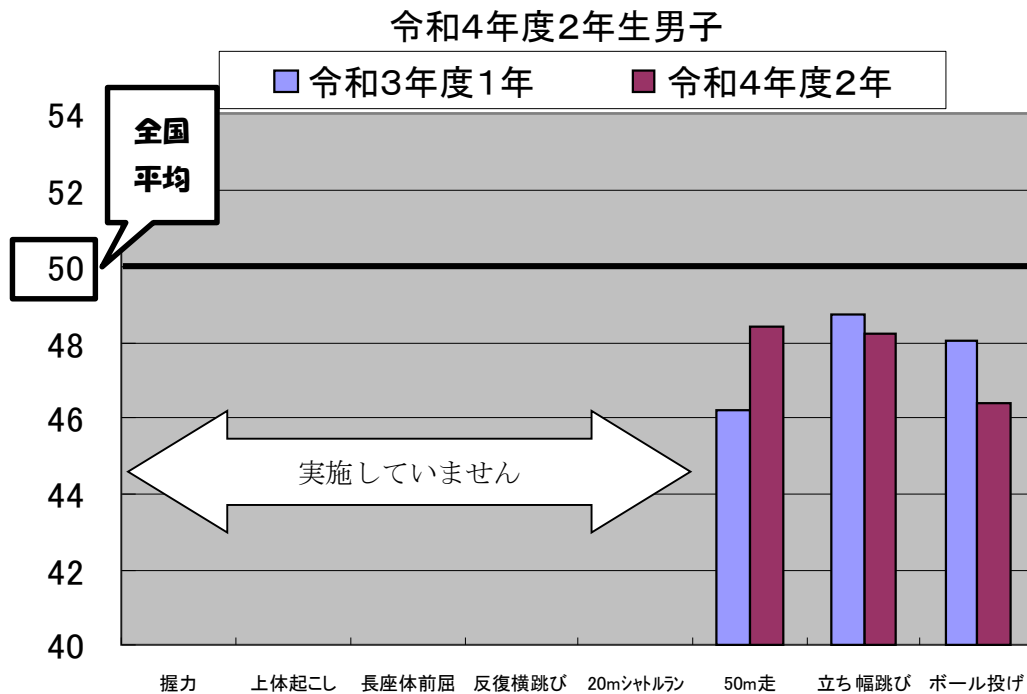
各種目結果の学年別経年比較



男子女子共に、すべての種目において全国平均値を下回っています。
特に、男子では「ボール投げ」、女子では「50m走」が低い値を示しています。
幼稚園・保育所等と課題を共有し、就学前の段階から改善を図る取り組みを進めていきます。

2年生（小2）

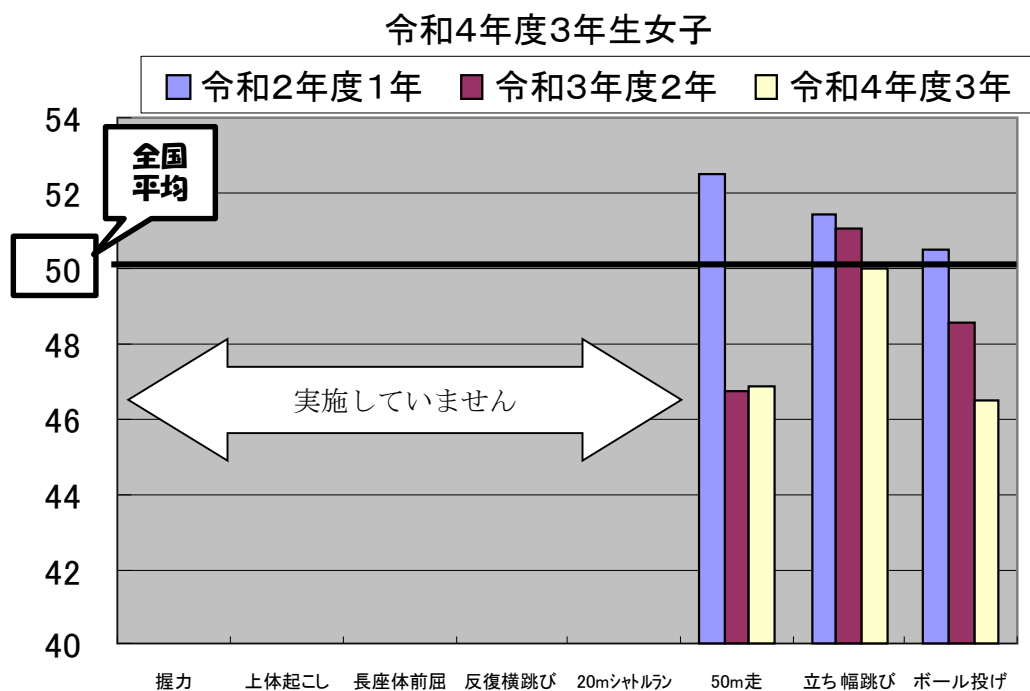
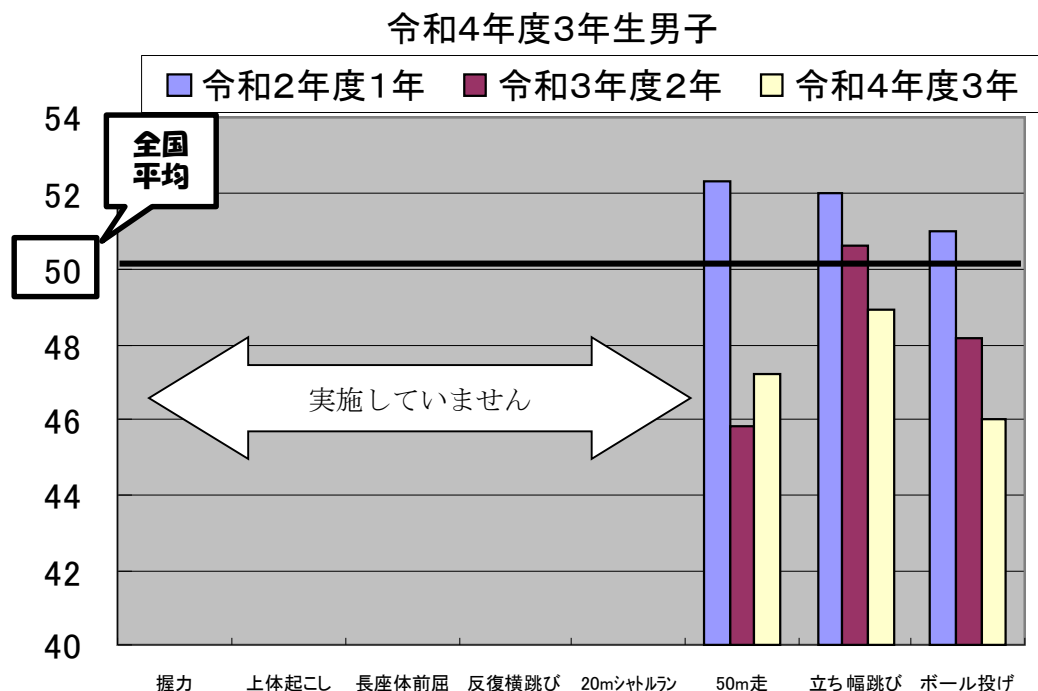
各種目結果の学年別経年比較



男子女子共に、すべての種目において全国平均値を下回っています。
 男子女子共に「50m走」は、前年度との比較から上昇しています。
 跳躍力、投力を高める運動に取り組み、改善を図っていきます。

3年生（小3）

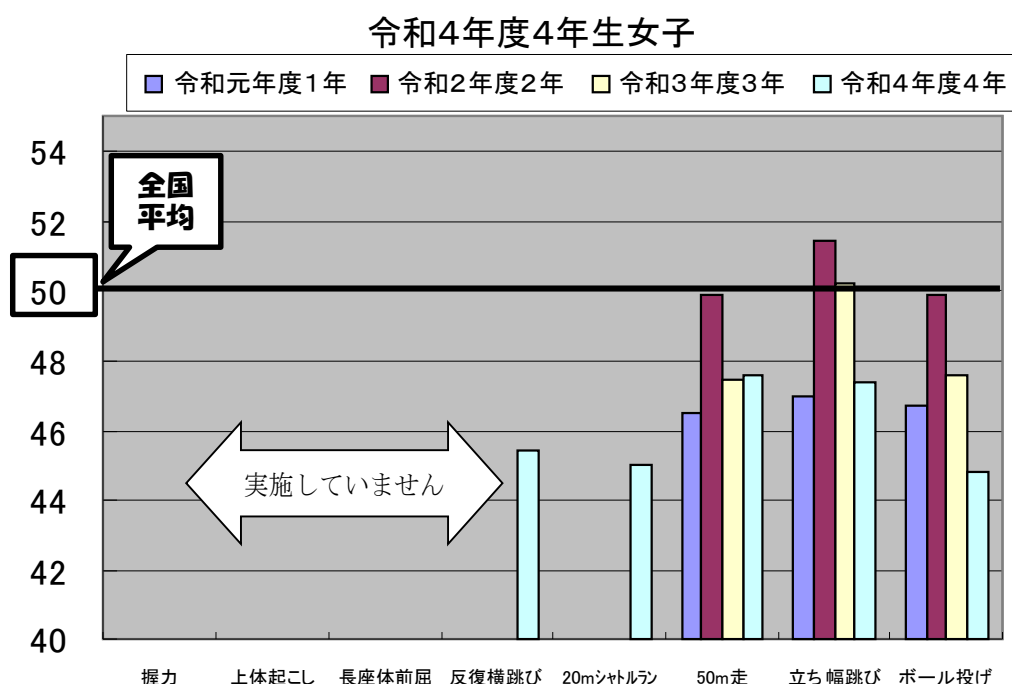
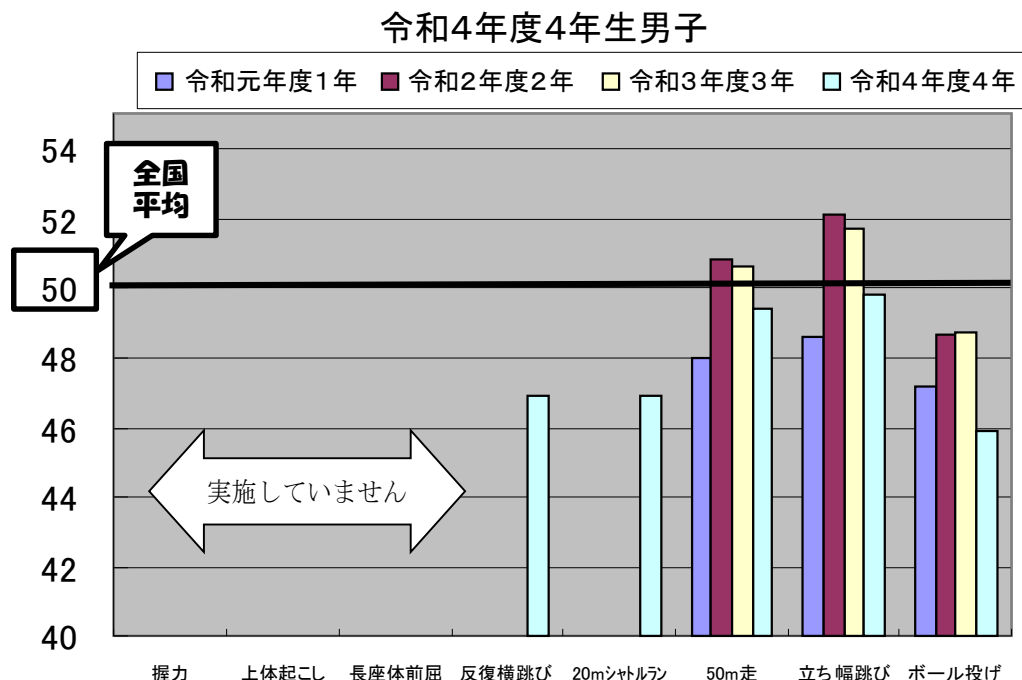
各種目結果の学年別経年比較



男子女子共に、すべての種目において全国平均値を下回っています。
 男子女子共に「50m走」は、前年度との比較から上昇しています。
 跳躍力、投力を高める運動に取り組み、改善を図っていきます。

4年生（小4）

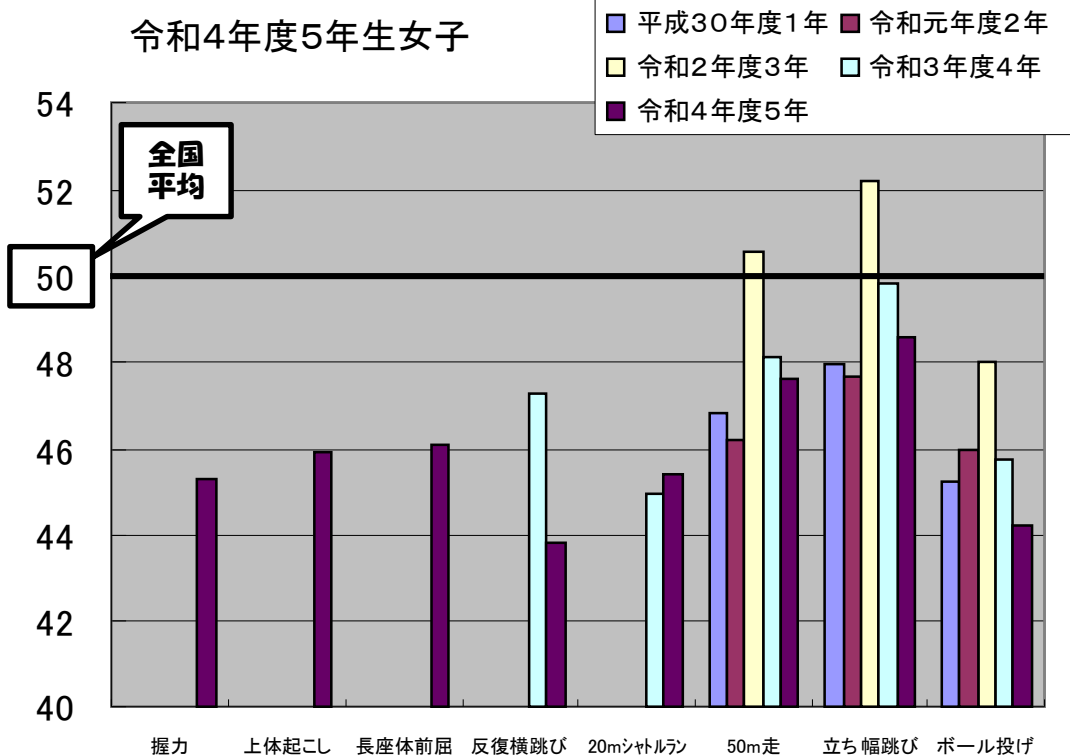
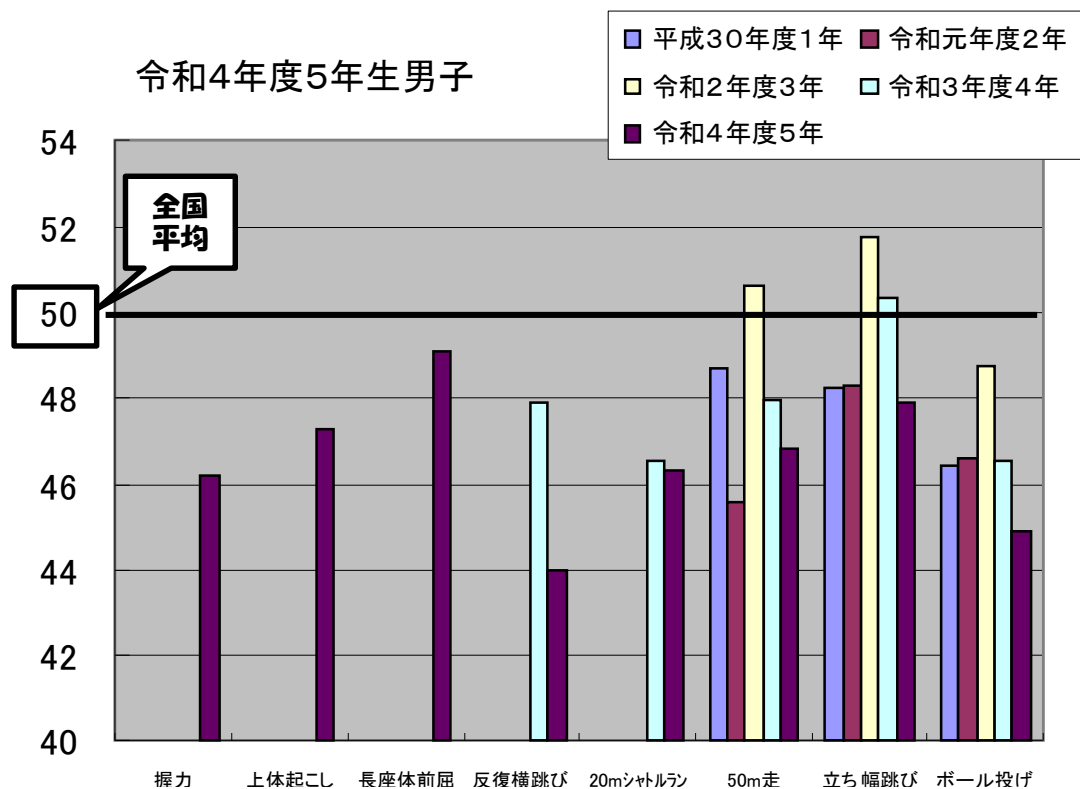
各種目結果の学年別経年比較



男子女子共に、すべての種目において全国平均値を下回っています。
 女子の「50m走」以外の種目では、前年度との比較から下降しています。
 特に、「立ち幅跳び」「ボール投げ」の値の減少の幅が大きく、跳躍力、投力を高める運動に取り組み、改善を図っていきます。

5年生（小5）

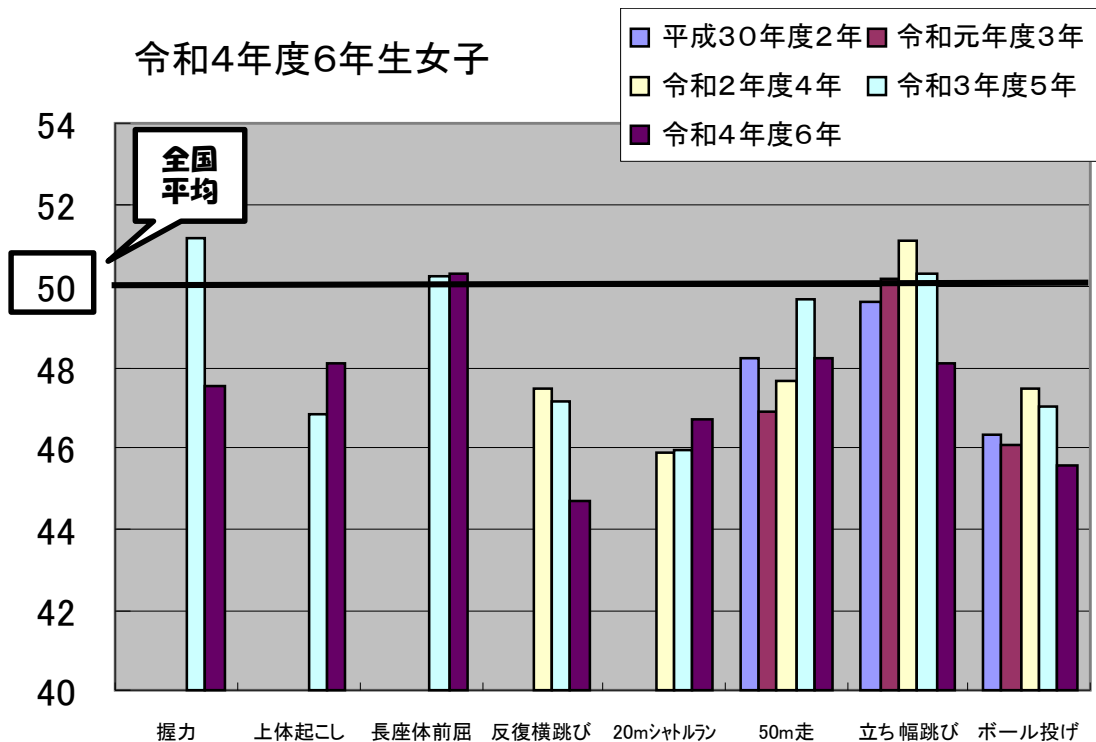
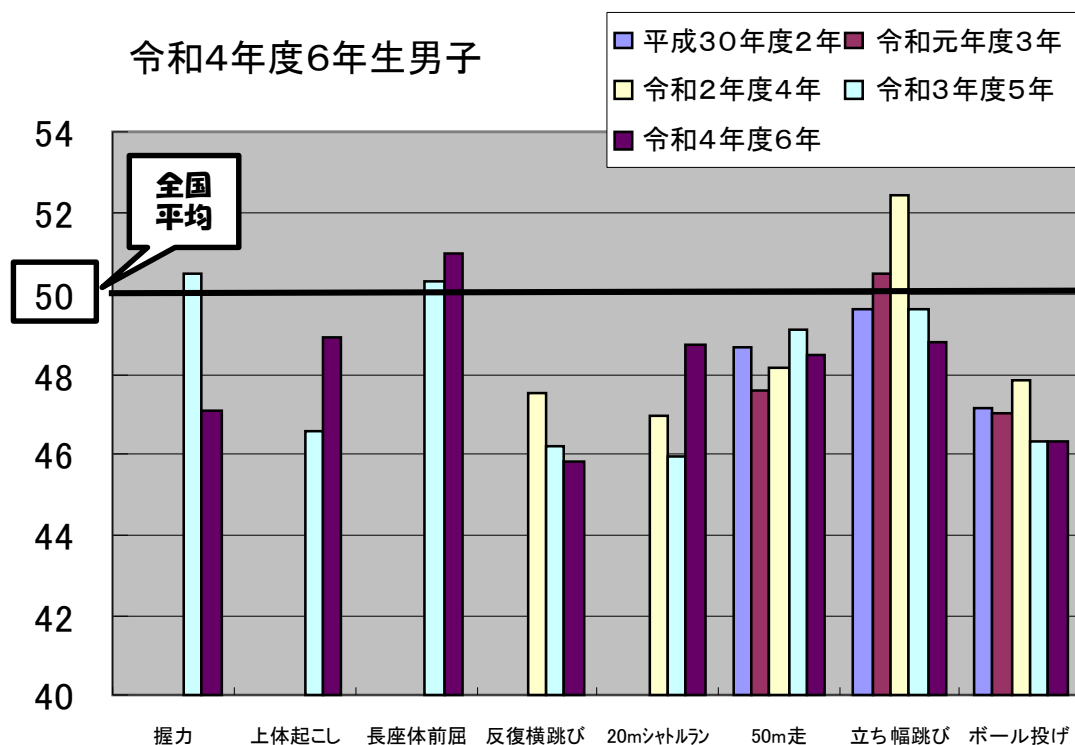
各種目結果の学年別経年比較



男子女子共に、すべての種目において全国平均値を下回っています。
 女子の「20mシャトルラン」以外の種目では、前年度との比較から下降しています。
 特に、「反復横跳び」「ボール投げ」の値が著しく低く、敏捷性、投力を高める運動に取り組み、改善を図っていきます。

6年生（小6）

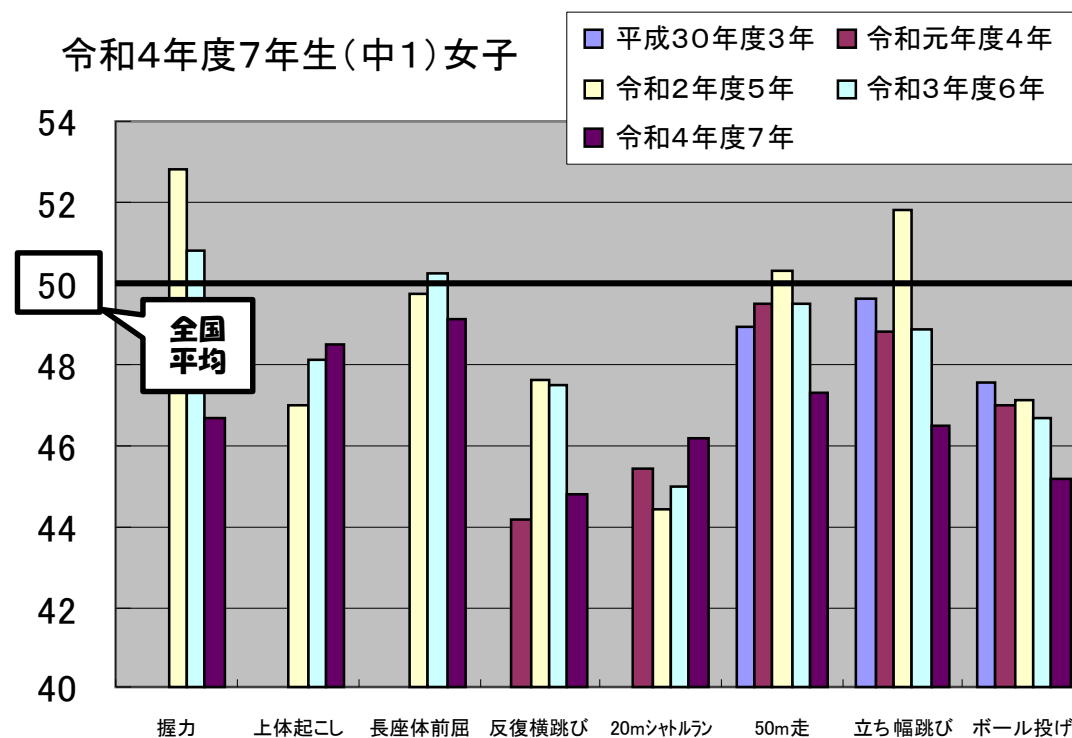
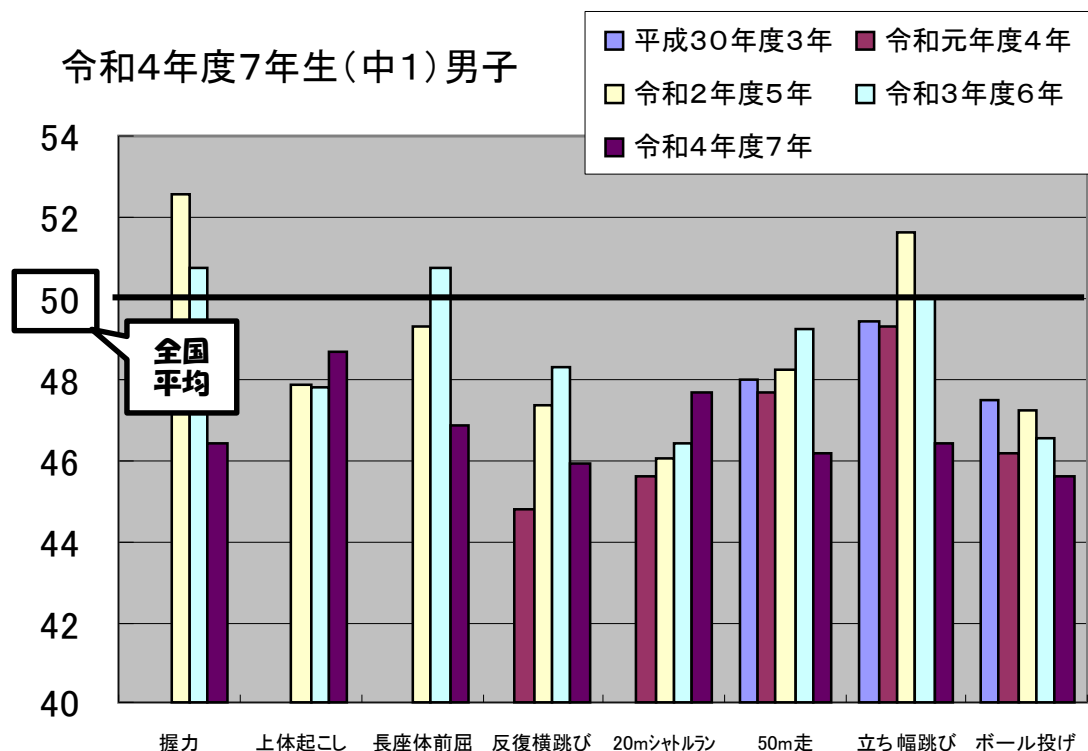
各種目結果の学年別経年比較



男子女子共に、「長座体前屈」においては全国平均値を上回っています。
 また、前年度との比較では、男子女子共に「上体起こし」「長座体前屈」「20mシャトルラン」において上昇しています。
 「反復横跳び」、「ボール投げ」の値が著しく低く、敏捷性、投力を高める運動に取り組み、改善を図っていきます。

7年生（中1）

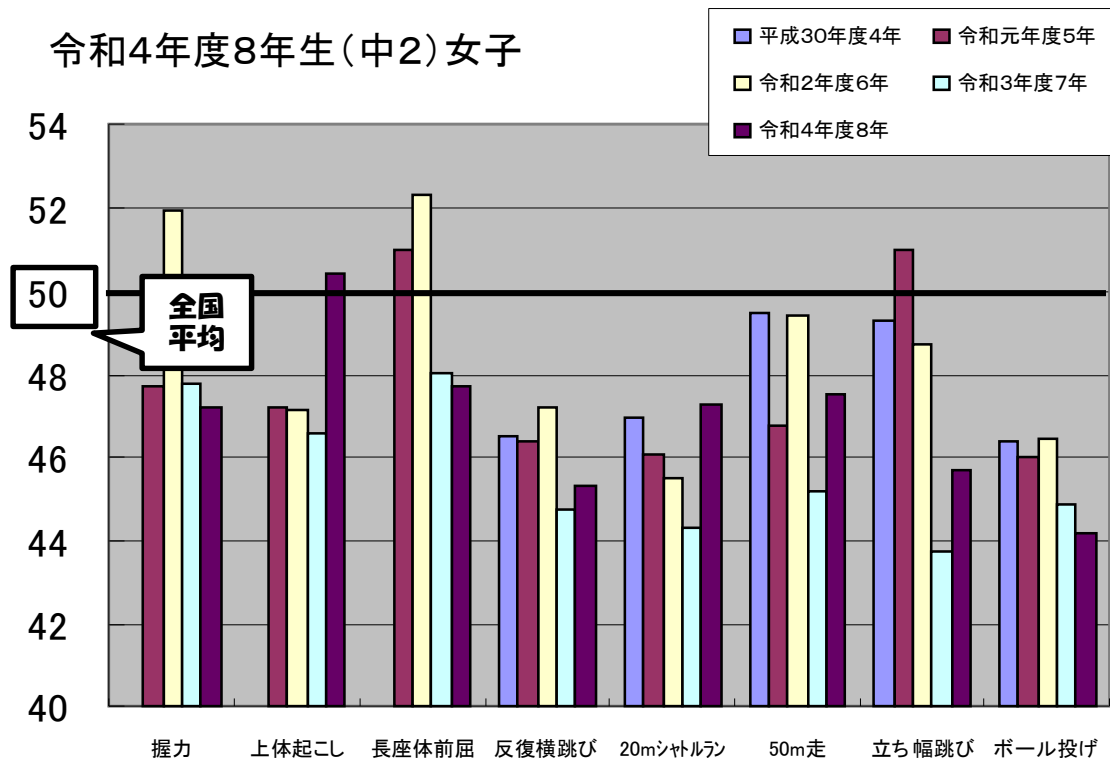
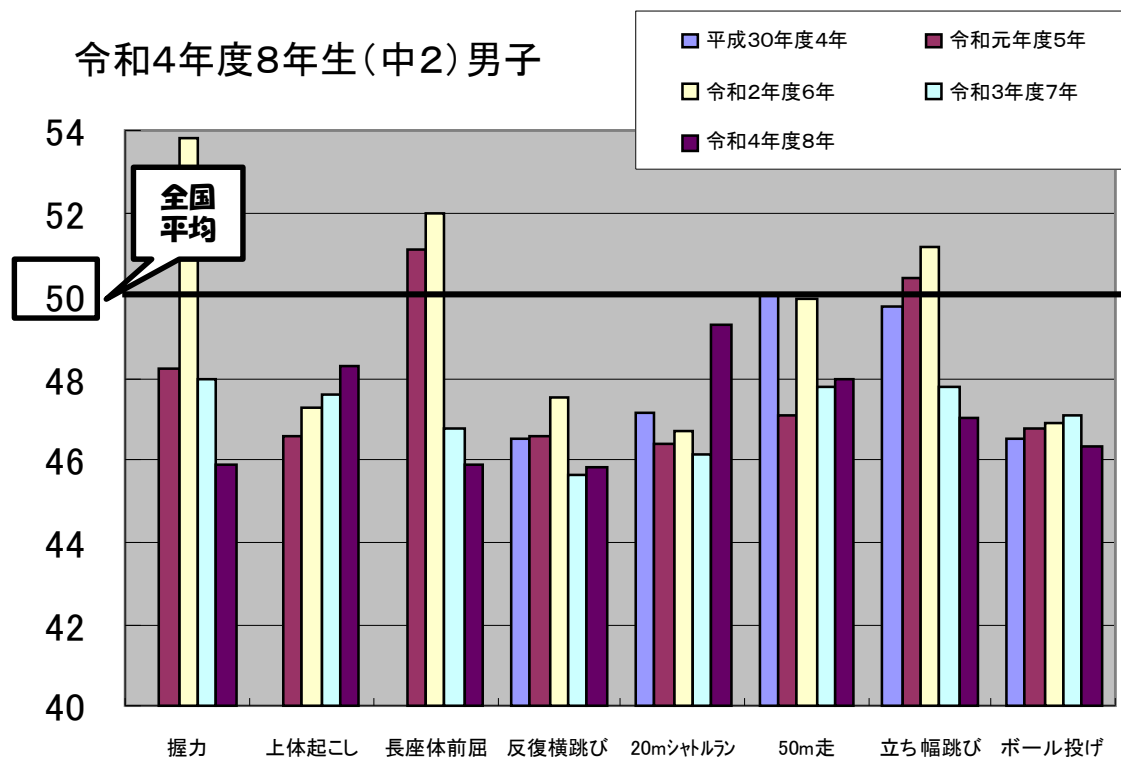
各種目結果の学年別経年比較



男子女子共に、すべての種目において全国平均値を下回っています。
 前年度との比較では、男子女子共に「上体起こし」、「20mシャトルラン」以外の種目においては、下降しています。
 男子女子共に「反復横跳び」「ボール投げ」の値が著しく低く、敏捷性、投力を高める運動に取り組み、改善を図っていきます。

8年生（中2）

各種目結果の学年別経年比較

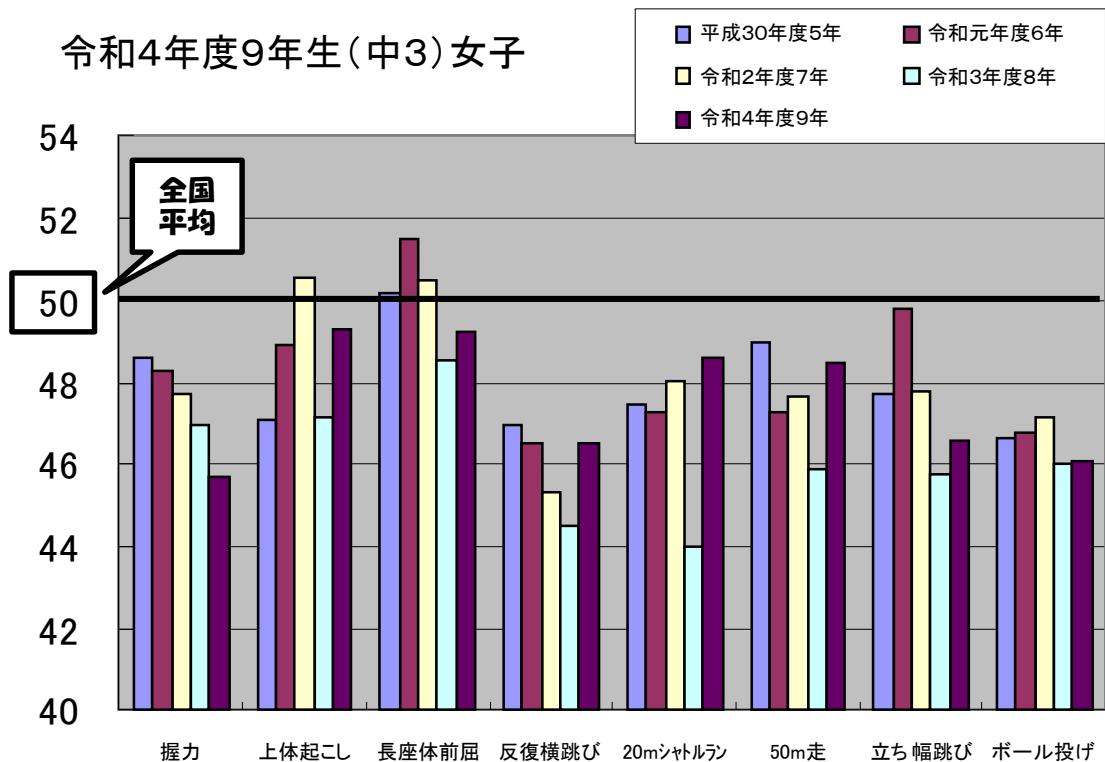
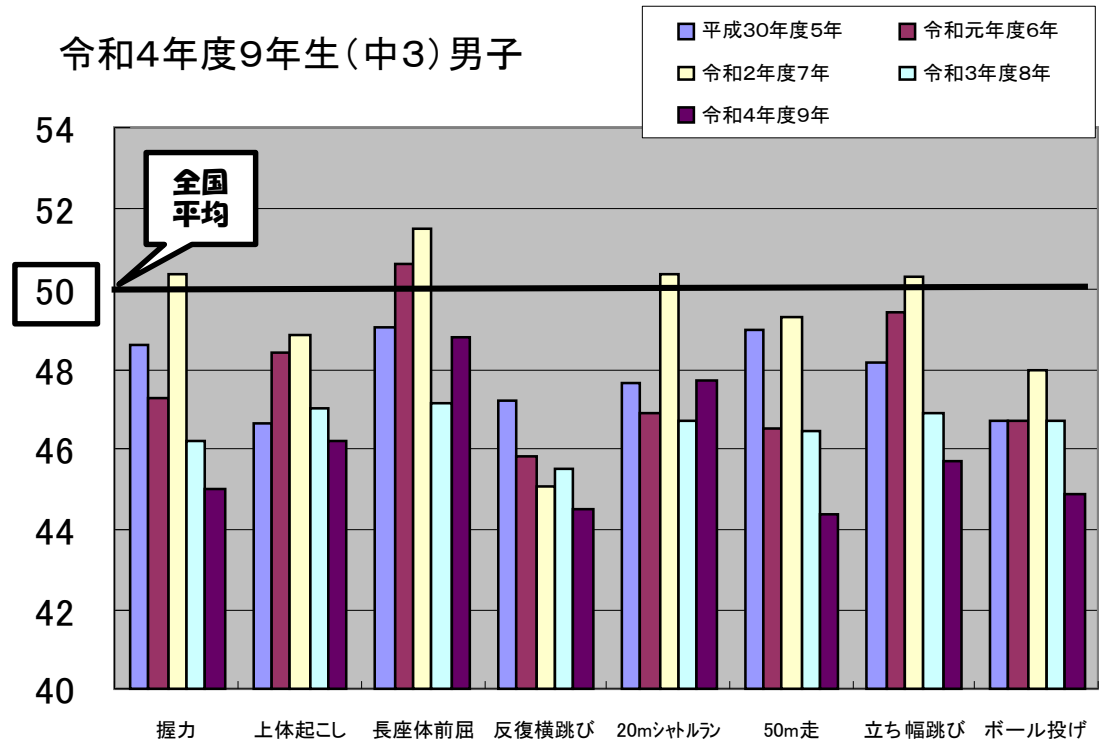


女子の「上体起こし」以外、すべての種目において全国平均値を下回っています。

一方で、前年度との比較では、男子女子共に「上体起こし」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「50m走」の4種目で上回りました。また女子においては、「立ち幅跳び」も前年度を上回り、改善の傾向が見られます。

9年生（中3）

各種目結果の学年別経年比較

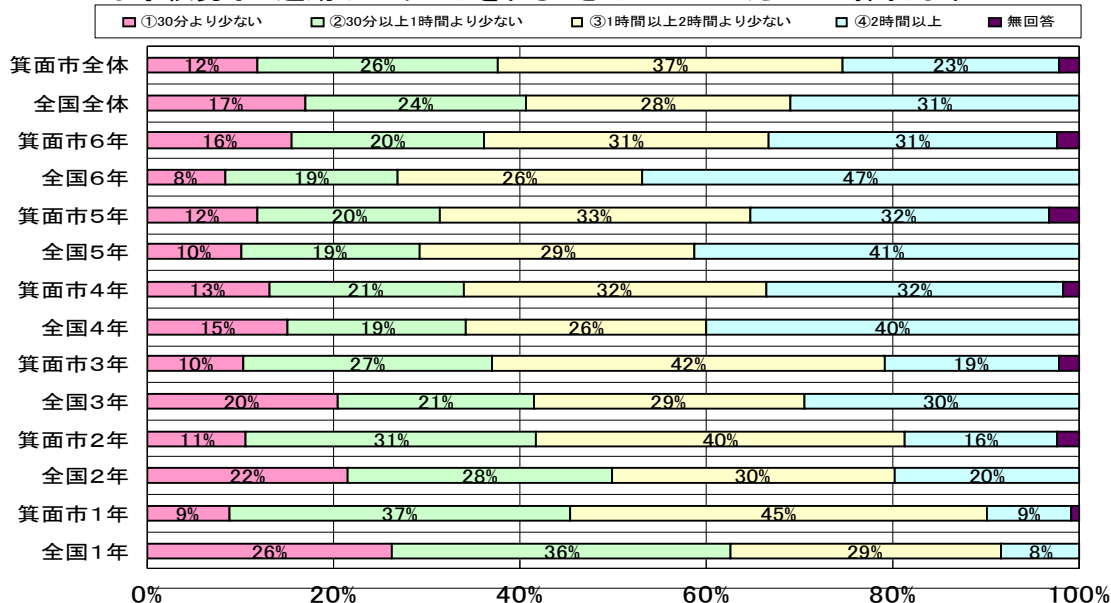


男子女子共に、すべての種目において全国平均値を下回っています。

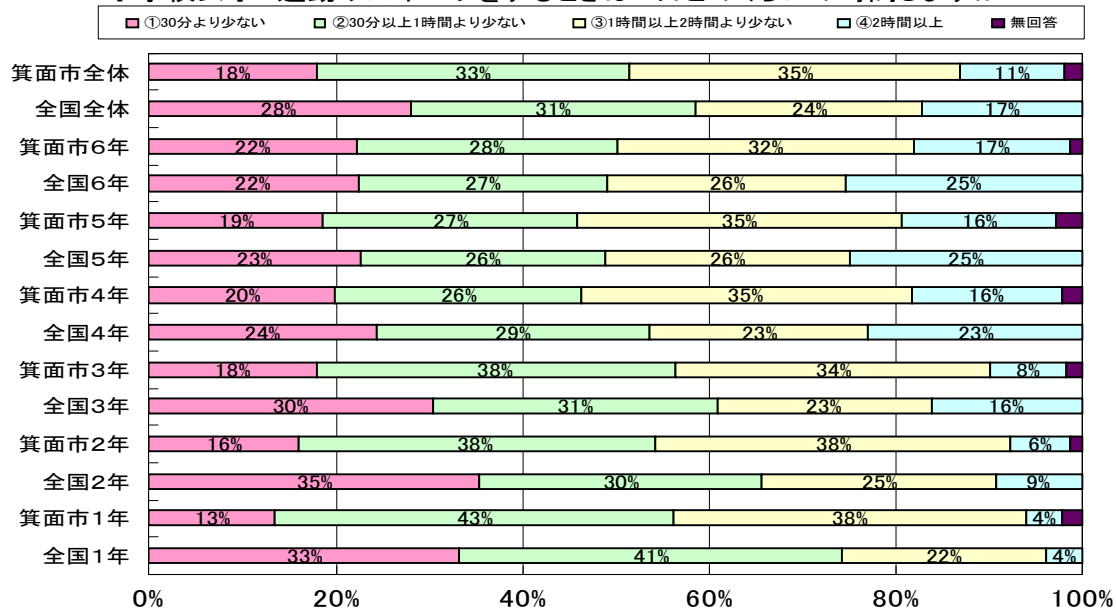
一方で、前年度との比較では、男子女子共に「長座体前屈」「20mシャトルラン」「50m走」の2種目で上回りました。また女子においては、「上体起こし」「反復横跳び」「立ち幅跳び」「ボール投げ」も前年度を上回り、改善の傾向が見られます。

令和4年度 運動習慣等調査の結果から

小学校男子 運動やスポーツをするときは1日どのくらいの時間しますか

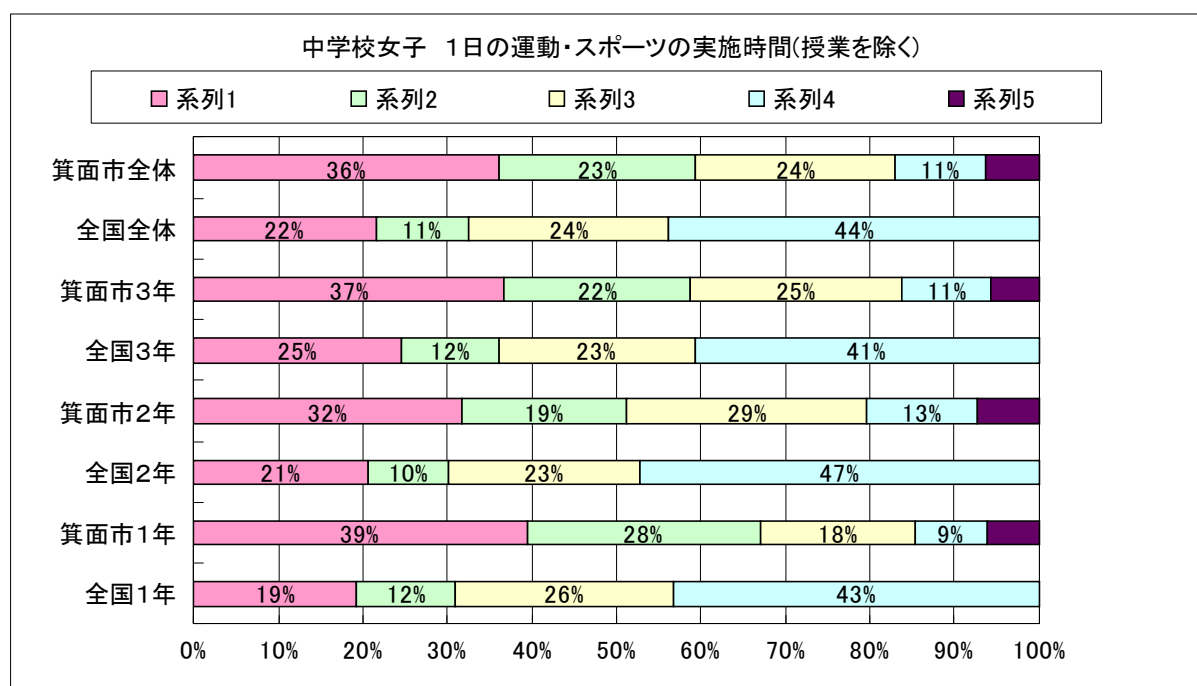
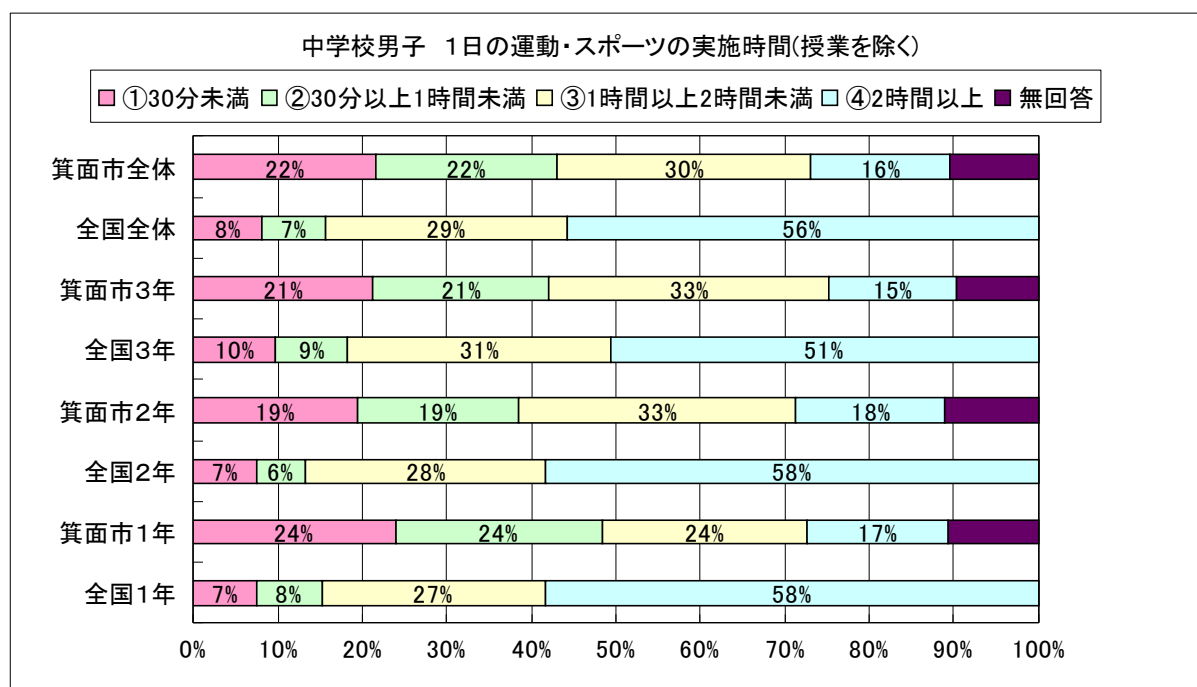


小学校女子 運動やスポーツをするときは1日どのくらいの時間しますか



小学生では、箕面市全体で「1日に運動やスポーツをする時間が30分より少ない」子どもたちの割合は女子では6年以外、男子では1～4年生で全国より少なく、低学年で特に低い傾向となっています。

また、「1時間以上運動やスポーツをする時間がある」子どもたちの割合は、男子の1～3年生、女子の1～4年生では全国と比べて多くなっており、こちらは学年が上がるにつれ運動やスポーツに親しむ時間が減少していく傾向があります。



中学男子では、1日に運動やスポーツをする時間が「1時間未満」の子どもたちの割合が、全国と比べて高く、学年が上がるにつれ、少しずつ運動に親しむ時間が減っています。また、「2時間以上運動やスポーツをする」子どもたちの割合は、全国平均値を大きく下回っています。

中学女子も男子と同様の傾向で、学年が上がるにつれ、運動やスポーツに親しむ時間が減少していく傾向があります。

令和4年度箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査まとめ

すすんで運動に親しむ子どもを学校・家庭・地域で育てよう！

今年度の「体力・運動能力、運動習慣等調査」において、全国平均値との比較では、箕面市の小中学生の体力は、各学年で依然として下回っている種目がほとんどです。しかし、小中学校の学年や男女別によっては、全国平均値を上回る種目（上体起こし・長座体前屈・立ち幅跳び）も見られます。また「運動習慣や健康意識についての調査」から、以下のことがわかりました。

- ・「**1日の運動・スポーツの実施時間が1時間以上**」の小中学生は**体力合計点が高い**！
- ・「**体育の授業で運動のコツやポイントをつかむことができる**」小中学生は**体力合計点が高い**！
- ・「**体育の授業で学んだ運動やスポーツを、大人になってもやってみたい**」という意識をもっている小中学生は、**体力合計点が高い**！



豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育てる取組を実施！

各学校では、体力調査の結果から見える課題をふまえ、体育の授業改善を進め、体力向上に取り組んでいます。今後も今回の体力調査の結果を受けて、いろいろな運動体験や機会も増やしつつ、さらに一人ひとりの子どもたちの体力向上をめざしていきます。

運動習慣等調査と体力合計点の関係で、体育の授業で学んだ運動やスポーツを、大人になってもやってみたいという意識をもっている子どもたちは体力合計点が高いことがわかりました。学校における体育活動を通じ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育てる授業を進めています。

しかし、学校で運動やスポーツに取り組める時間には限りがありますので、帰宅後や休みの日などに、家庭や地域の中でも運動する機会の確保が大切となってきます。

子どもといっしょに！ 大人もすすんで 運動やスポーツを楽しみましょう！



運動やスポーツに興味関心があり、「**好き！楽しい！**」と思える児童生徒は、積極的に体育の授業にも取り組むことができます。児童生徒が運動やスポーツに興味関心を持つには、ご家族と一緒に運動したり、スポーツを観戦したりすることが大切です。ぜひ、各地域でおこなわれている運動・スポーツの行事に子どもたちと一緒に積極的に参加していただければと思います。

さらに、就学前からさまざまな「運動・遊び」に親しませることが、それ以降の**体力向上**につながることがわかっています。各中学校区内では、幼稚園や保育所とも連携をおこない、体力向上に取り組む、生涯スポーツ社会の実現を進めていきます。